

授業科目名： 法学概論Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：山崎 将文 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：現代社会と法の関わりを考察する 到達目標：日常生活において、法が多様な分野に関連していることを理解する。分野別に、法の基本的な考え方、制度の仕組み、重要判例等について概観し、法的な基礎知識や思考力を習得する。これにより、社会全体における法の機能を把握する。			
授業の概要 法学の基礎知識・基礎理論の概略を学ぶ（法学入門編）。毎回、プリントを配布し、レジュメを読んだうえで課題に答えてもらう。なお、時事問題や裁判所の判決を多く取り上げる			
授業計画（1コマ：100分） 第1回：オリエンテーション 法のイメージ、時事問題（新型コロナウイルス感染症と法など） 第2回：法とは何か（法の定義）、法の強制力（刑罰、強制執行、謝罪広告など） 第3回：法と道徳が密接な関係をもつ場合など 第4回：法と道徳が相反する場合など 第5回：法の解釈 第6回：法はどのような形で存在するか（法源論） 第7回：法の効力 第8回：法の分類（1）公法と私法など 第9回：法の分類（2）一般法と特別法など 第10回：裁判所の仕組み 第11回：公法（1）憲法 第12回：公法（2）行政法 第13回：公法（3）国際法 第14回：前期試験 総まとめ			
テキスト 使用しない			
参考書・参考資料等 グラフィック法学入門（青木人志、新世社）			
学生に対する評価 授業中課題（前期試験含む）（80％）、参加度（20％）			

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：山崎 将文
法学概論Ⅱ	必修科目	2 単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める	教科に関する専門的事項		
科目区分又は事項等	「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：現代社会と法の関わりを考察する			
到達目標：日常生活において、法が多様な分野に関連していることを理解する。分野別に、法の基本的な考え方、制度の仕組み、重要判例等について概観し、法的な基礎知識や思考力を習得する。これにより、社会全体における法の機能を把握する。本講義では、法学概論Ⅰと異なった内容・分野を展開していく。			
授業の概要			
毎回レジュメと参考資料を配布し、これに沿って解説する。時事の内容は、適宜に講義に加えていく。小テストや課題の扱いについては、講義時に説明する。			
授業計画（1コマ：100分）			
第1回：オリエンテーション			
法のイメージ・隣人訴訟など			
第2回：悪質商法の対処法（1）悪質商法の種類、訪問販売法など			
第3回：悪質商法の対処法（2）特定商取引法			
第4回：悪質商法の対処法（3）消費者契約法			
第5回：民法の一般原則			
心裡留保、通謀虚偽表示、錯誤、詐欺、強迫など			
第6回：契約（1）典型契約			
第7回：契約（2）非典型契約			
事務管理、不当利得			
第8回：不法行為（1）一般不法行為			
第9回：不法行為（1）特殊不法行為			
第10回：家族法の歴史			
第11回：親族			
第12回：相続			
第13回：児童虐待防止法、高齢者虐待防止法、障害者虐待防止法			
第14回：後期試験 総まとめ			
テキスト			
使用しない			
参考書・参考資料等			

プラクティス・法学実践教室Ⅰ《法学・民法・刑法編》（高乗正臣・奥村文男編、成文堂）

学生に対する評価

授業中課題（後期試験含む）（80％）、参加度（20％）

授業科目名： 政治学概論Ⅰ	教員の免許状取得のため の 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：田代 和也 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：政治学に関する基礎知識の習得 到達目標：本講義は、政治学への入門段階において習得しておく必要がある政治的現象や用語を、現代日本政治の具体的な事例の中から、受講生に理解してもらうことを目指す。			
授業の概要 政治学を学ぶ入門段階において、理解する必要がある事柄を扱う。主に日本政治の展開の中から、政治アクターや政治学上の基本的概念を説明し、受講生に理解してもらう。			
授業計画（1 コマ：100 分） 第1回：政治とは何か、政治学をどのように学べばよいか 第2回：代議制、選挙、投票行動（教科書 1 章） 第3回：市民社会、マスコミュニケーション、政治意識（教科書 2 章） 第4回：権力政治、政治的パーソナリティ、リーダーシップ（教科書 3 章） 第5回：政党制、政党組織（教科書 4 章） 第6回：国家、官僚制、行政（教科書 5 章） 第7回：エリート、多元主義、利益団体（教科書 6 章） 第8回：国内政治と国際政治の関係 第9回：政策の立案、実施、評価（教科書 7 章） 第10回：議院内閣制、大統領制（教科書 8 章） 第11回：地方自治、中央地方関係、分離独立（教科書 9 章） 第12回：国際政治、安全保障、戦争（教科書 10 章） 第13回：世界経済、貿易、外交（教科書 11 章） 第14回：日本の政治（教科書 12 章）			
テキスト ポリティカル・サイエンス事始め（伊藤光利、有斐閣）			
参考書・参考資料等 政治学の名著 30（佐々木毅、筑摩書房） 政治学事典（猪口孝など、弘文堂）			

学生に対する評価

レポート（100％）

授業科目名： 政治学概論Ⅱ	教員の免許状取得のため の 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名：田代 和也 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：政治学体系の理解 到達目標：本講義は、受講生に政治学を体系的に理解してもらい、政治学の概念や理論を自分の言葉で説明してもらうことを目指す。			
授業の概要 本講義は、政治学を学ぶ上で、必要な概念や理論について扱う。特に、権力、民主主義、統治機構・地方自治に関する概念について詳しく説明する。			
授業計画（1 コマ：100 分） 第1回：政治とは何か、政治学をどのように学ぶか 第2回：人類の歴史と政治の成り立ち 第3回：権力のさまざまな形態、権威から暴力まで 第4回：イデオロギーとしての宗教、法律の意義 第5回：政治と財政、経済、社会の関連性 第6回：ヨーロッパの政治 第7回：中東・西アジアの政治 第8回：南アジアの政治 第9回：東アジアの政治 第10回：北アメリカの政治 第11回：中南米・ラテンアメリカの政治 第12回：アフリカの政治 第13回：グローバル化の時代の政治 第14回：全体のまとめ			
テキスト			
参考書・参考資料等 『独裁者のためのハンドブック』（ブルース・ブエノ・デ・メスキータ、アラスター・スミス著、 四本健二、浅野宜之訳、亜紀書房、2013 年）			

学生に対する評価

レポート（100％）

授業科目名： 社会学概論Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：松田 いりあ 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：現代日本社会の諸問題を社会学理論とデータを参照しながら読み解く 到達目標：現代日本は20世紀につちかわれた「自明性」の感覚が空洞化し再編される時代を迎えている。私たちが「あたりまえ」と思ってきたことがもはや「あたりまえ」ではない時代に「まとも」に生きることは簡単ではない。この授業ではかつて「あたりまえ」と思われてきた事柄をメタレベルから再検討することによって、21世紀の社会で少しでも「まとも」に生きていく方法をとともに模索していく。			
授業の概要 自我、家族、コミュニティ、階級・階層、国民国家、グローバル化、情報化など社会学の基本概念の理解を通じて、現代の日常生活を社会的に理解する方法の習得を目指す。社会学を学習する上での困難のひとつは、社会が空気のような当たり前の存在に思われがちな点にあるが、この授業では、社会の歴史的な形成を明らかにすると同時に、社会の自明性や秩序を守るために私たちには何が求められているのか、という問題意識を身につけることも目標になる			
授業計画（1コマ：100分） 第1回：はじめに：この授業の概要の説明 第2回：社会学とは何か（1）：社会とは 第3回：社会学とは何か（2）：近代社会とは 第4回：社会学とは何か（3）：現代社会とは 第5回：家族をめぐる社会学（1）：家族を定義することの困難 第6回：家族をめぐる社会学（2）：現代家族をめぐる諸問題 第7回：ジェンダーをめぐる社会学 第8回：自己（自我）をめぐる社会学 第9回：仕事をめぐる社会学 第10回：地域をめぐる社会学 第11回：国家をめぐる社会学 第12回：グローバル化をめぐる社会学 第13回：メディアと情報化をめぐる社会学：メディアの歴史と現代社会 第14回：まとめ：この授業の総括			
テキスト なし			

参考書・参考資料等

宇都宮京子・西澤晃彦編著『よくわかる社会学 第3版』ミネルヴァ書房

学生に対する評価

授業中課題（50％）レポート（50％）

授業科目名： 社会学概論Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：松田 いりあ 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：現代日本社会の諸問題に関する社会学的想像力の習得 到達目標：現在の日本では高度経済成長期につちかわれた「自明性」がもたらした副作用ともいえるべき問題に対峙している。この授業では社会の「あたりまえ」という感覚の崩壊や空洞化の前に立ちすくむのではなく、新たな「自明性」の再構築あるいはバージョンアップを社会学的な知識と方法を通じて探究する。			
授業の概要 近年社会学の研究対象として定着した中・後期親子関係、教育システム、親密性、記憶、情報技術などのテーマについて、それぞれの研究分野の第一人者によるテキストの読解を通じて、社会学的想像力の定着を目指す。企業、行政、コミュニティなどそれぞれの現場でのプロフェッショナルにこそ、日常業務と（社会学的）知識との間を往還が重要であることを授業を通じて実感してもらうことが目標である。			
授業計画（1コマ：100分） 第1回：はじめに：この授業の概要の説明 第2回：家族関係の現在 第3回：友人関係の現在 第4回：学校・教育の現在 第5回：親密性の現在 第6回：記憶の現在 第7回：ポピュラー文化の現在（1）：ファン・オーディエンスの変容 第8回：ポピュラー文化の現在（2）：コンテンツのグローバル化 第9回：情報技術の現在（1）：インターネットの可能性 第10回：情報技術の現在（2）：インターネットの課題 第11回：現代社会と社会学（1）：認識をめぐる問題 第12回：現代社会と社会学（2）：実存をめぐる問題 第13回：現代社会と社会学（3）：コミュニケーションをめぐる問題 第14回：まとめ：この授業の総括			
テキスト なし			
参考書・参考資料等			

宇都宮京子・西澤晃彦編著『よくわかる社会学 第3版』ミネルヴァ書房

学生に対する評価

授業中課題（50％）レポート（50％）

授業科目名： 経済学概論Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大畑 貴裕 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：日本を中心とする現代経済の諸問題 到達目標：日本経済を中心に現代経済の特徴を理解することである。より具体的には、現代日本に関わる直接的・間接的な経済現象（経済成長、金融、貿易、国際金融、雇用、財政、家計、消費者、少子高齢化などの領域）、また日本とも関連する国際経済の諸側面や特徴的な現代史の事例を理解するための基本的な概念・考え方・事象を習得する。			
授業の概要 日本経済を中心とする様々な経済現象を経済学的な視点から見ていく。授業では、原則として毎回、レジュメや資料を配布して、それに基づいて説明を加える。			
授業計画（1コマ：100分） 第1回：経済成長 第2回：自由貿易 第3回：援助 第4回：貧困 第5回：雇用に関する特徴1（日本的雇用） 第6回：雇用に関する特徴2（日本的な生産システムの特徴） 第7回：雇用に関する特徴3（雇用調整とは） 第8回：雇用に関する特徴4（非正規雇用） 第9回：雇用に関する特徴5（労働市場分析の基礎） 第10回：戦後財政1（財政状況の概況、占領・復興期から安定成長期にかけての特徴） 第11回：戦後財政2（1990年代以後の「失われた30年」期の特徴） 第12回：イノベーション1（イノベーションに関する理論的基礎） 第13回：イノベーション2（日本経営史におけるイノベーションの事例） 第14回：現代経済の問題点			
テキスト			
参考書・参考資料等 伊藤元重『入門経済学 第4版』日本評論社、2015年			
学生に対する評価 小テスト（100％）			

授業科目名： 経済学概論Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：大畑 貴裕 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「社会学、経済学（国際経済を含む。）」		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：現代日本経済の推移を学ぶ 到達目標：日本経済の戦後の経過や重要な事象に関して理解を深めることにより、現代日本経済に関係する記事や文献を読みこなすための基本的な知見を修得する。			
授業の概要 授業では、高度成長期以後の現代日本経済史を扱う。高度成長期（1955年頃より1970年代初頭）、安定成長期（1970年代初頭より1980年代）、バブル経済期（1980年代後半）、1990年代初頭のバブル経済の崩壊、1990年代以後の「長期停滞」期の下での日本経済の変容に関して授業を行う。			
授業計画（1コマ：100分） 第1回：高度成長期1（概論、国際情勢） 第2回：高度成長期2（高度成長と景気変動） 第3回：高度成長期3（金融面から見た高度成長） 第4回：高度成長期4（産業政策） 第5回：高度成長期5（日本的経営） 第6回：安定成長期1（高度成長の終焉と国際環境） 第7回：安定成長期2（日本人の働き方の変容と公害） 第8回：安定成長期3（第1次石油危機と安定成長） 第9回：安定成長期4（第2次石油危機と日本経済） 第10回：安定成長期5（プラザ合意とその影響） 第11回：バブル期（1980年代後半から1990年代初頭の日本経済） 第12回：1990年代以後の日本経済1（不良債権の影響） 第13回：1990年代以後の日本経済2（金融システムの安定化） 第14回：1990年代以後の日本経済3（小泉改革の特徴）			
テキスト			
参考書・参考資料等 三和良一・三和元『概説日本経済史 近現代 第4版』東京大学出版会、2021年			
学生に対する評価 小テスト（100％）			

授業科目名： 哲学概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：岩崎 豪人 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：哲学の広がり と 深さを学ぶ。 到達目標：哲学とは何かをできるだけ身近な問いに引きつけて理解すること。			
授業の概要 哲学は何を問題にしてきたのか、またそれにどのように取り組んできたか、そしてその問いは私達にとってどんな意味をもつのかについて、様々な哲学者の著作を通して考える。			
授業計画（1コマ：100分） 第1回：イントロダクション 第2回：哲学とはなにか？ 第3回：哲学の問い 第4回：哲学の問いの意味 第5回：哲学的思考 第6回：自由と社会 第7回：自由と教育 第8回：社会と教育 第9回：社会哲学 第10回：労働と社会 第11回：社会と競争 第12回：現代哲学（1）科学技術 第13回：現代哲学（2）責任 第14回：現代正義論			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 アレク・フィッシャー『クリティカル・シンキング入門』ナカニシヤ出版、2005 年 戸田山和久・出口康夫『応用哲学を学ぶ人のために』世界思想社、2011 年			
学生に対する評価 授業中課題（50％） レポート（50％）			

授業科目名： 倫理学概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：岩崎 豪人 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：倫理学とは何か、倫理学にどのような意義があるのかを理解する。			
到達目標：倫理的な考え方を身につけることを目標とする。			
授業の概要			
近代以降の倫理学の学説を中心として、倫理的な考え方の基礎を歴史的背景を含めて理解し、現代社会の諸問題を考える上で倫理的な思考法の意義と重要性を知る。			
授業計画（1コマ：100分）			
第1回：イントロダクションー倫理学とは何か			
第2回：倫理学の基礎			
第3回：近代の倫理学			
第4回：功利主義（1）ー功利主義とは何か？			
第5回：功利主義（2）ー功利主義の意義と限界			
第6回：義務論（1）ーカントの倫理学			
第7回：義務論（2）ー義務論の意義と限界			
第8回：義務論と功利主義の展開			
第9回：自由主義			
第10回：生命倫理学（1）基本概念			
第11回：生命倫理学（2）事例検討			
第12回：環境倫理学（1）基本概念			
第13回：環境倫理学（2）事例検討			
第14回：現代社会と倫理			
テキスト			
なし			
参考書・参考資料等			
ジェームズ・レイチェルズ『現実を見つめる道徳哲学』晃洋書房、2017年			
加藤尚武『現代倫理学入門』講談社学術文庫、1997年			
学生に対する評価			
授業中課題（50％）レポート（50％）			

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：橋本 章彦
宗教学概論	選択科目	2 単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める	教科に関する専門的事項		
科目区分又は事項等	「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：宗教と向き合うより良き方法を考える			
到達目標：宗教とはいったい何なのか、そして人はなぜ宗教を求めるのか、といった問題を考えることを通じて、私たちは宗教とどのように向き合っていくのがもっとも適切なのかについて、自分なりの考えを形成してほしい。			
授業の概要			
以下の予定で授業を行う			
授業計画（1コマ：100分）			
第1回：総論Ⅰ 宗教と宗教学-宗教にどのようにアプローチするかー 宗教の主観的研究と客観的研究、そして対象としての宗教			
第2回：総論Ⅰ 宗教と宗教学-宗教にどのようにアプローチするかー 宗教学は文化としての宗教を科学的に研究する学問である			
第3回：総論Ⅱ 宗教をもし短い言葉で表せばどのように表現できるか-宗教を規定する-			
第4回：総論Ⅲ 世界で行われているいくつかの宗教を概観することで宗教の本質を看取する			
第5回：総論Ⅳ 「信仰」はどのようにして形成され強固となるかー信仰とは、宗教的な “かまえ”である			
第6回：総論Ⅳ「信仰」はどのようにして形成され強固となるかー個人の宗教体験において重要な回心、そして信仰を強固にするための修行について考える			
第7回：総論Ⅴ 人は如何なるときに宗教に触れるのか-個人に宗教が現れる時と場-			
第8回：総論Ⅵ 宗教は人間とそれを取り巻く世界をどのようなものと考えたかーキリスト教の場合			
第9回：総論Ⅵ 宗教は人間とそれを取り巻く世界をどのようなものと考えたかー仏教の場合			
第10回：各論編Ⅰ イスラームについて知ろう-成立と展開を概観する-			
第11回：各論編Ⅱ 仏教-その歴史と根本思想を知るー釈迦の生涯と思想			
第12回：各論編Ⅱ 各論編Ⅱ 仏教-その歴史と根本思想を知るー初期仏教から大乘仏教へ			
第13回：各論編Ⅲ キリスト教の歴史ー成立とローマによる公認までー			
第14回：各論編Ⅲ キリスト教の歴史ー教皇権の確立から宗教改革へ、そして日本への影響ー			
テキスト			
なし			
参考書・参考資料等			
宗教学（岸本英夫、大明堂）			

宗教学入門（脇本平也、講談社）
学生に対する評価
授業中課題（50％）レポート（50％）

授業科目名： 心理学概論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：柴田 利男 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：心理学の成り立ちと人の心の基本的な仕組み及び働きについて理解する。			
到達目標：心理学の歴史と方法について理解し、基本的な心の仕組みと働きについて説明できること。			
授業の概要			
われわれは環境をどのように捉え、どのように感じ、どのように行動するのか。この心理学の基本的テーマに関して概観を試みる。具体的には様々な側面での心の働きについて大まかな見取り図を提供し、各側面に関する研究の歴史と最新の研究成果を紹介する。これを通して心理学の成り立ちと人の心の基本的な仕組み及び働きについて理解する。			
授業計画（1コマ：100分）			
第1回：歴史と方法 ヴント以前の心の捉え方から科学的心理学へ、環境－身体－行動			
第2回：環境を理解する（1）感覚・知覚：精神物理学、内観、要素と全体			
第3回：環境を理解する（2）知覚・認知：注意、知覚的防衛－「見える」ことと「見る」こと			
第4回：環境を理解する（3）記憶：記憶の変容、プライミング			
第5回：環境を理解する（4）思考：思考・判断のメカニズム			
第6回：身体が反応する（1）生物学的基盤：心身二元論、比較心理学、脳科学と心理学			
第7回：身体が反応する（2）脳と心：脳と「私」－分割脳、桶の中の脳、身体図式			
第8回：身体が反応する（3）感情：感情の進化論、身体反応の原因帰属			
第9回：行動を制御する（1）学習①：行動主義、行動形成のメカニズム			
第10回：行動を制御する（2）学習②：社会的学習－認知理論としての学習理論			
第11回：行動を制御する（3）動機づけ：やる気、意図、自己意識			
第12回：環境－身体－行動の一体化（1）性格・社会：個性化、集団と個人、文化的環境			
第13回：環境－身体－行動の一体化（2）発達・教育・臨床：発生と時間的变化、不適応			
第14回：環境－身体－行動の一体化（3）心理学の展開：健康と福祉、心理学のこれから & 期末試験			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 心理学概論－こころの理解を社会へつなげる－ 日比野英子（監修） ナカニシヤ出版			
学生に対する評価：試験 50%、小テスト 50%			

授業科目名： 臨床心理学概論		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2 単位	担当教員名：松下 幸治、 岸 太一、濱田 智崇
				担当形態：オムニバス
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
授業のテーマ及び到達目標				
テーマ：臨床心理学の概論の理解				
到達目標：臨床心理学の基本的な理論・援助法・査定法について理解する。				
授業の概要 臨床心理学は、現代社会が抱えている心理的問題のみならず、教育の問題、高齢者・障害者のケアとリハビリテーション、犯罪被害者のケアなどのさまざまな問題の解決や改善を要請されている学問領域であるが、本科目ではその基礎理論と心理アセスメント・心理的援助を概観して、その理念・歴史・構造・実践活動を理解することをねらいとする。				
授業計画（1コマ：100分）				
第1回：臨床心理学の定義とその成り立ち（担当：濱田 智崇）				
第2回：臨床心理学に関する専門職とその領域（担当：濱田 智崇）				
第3回：心理的支援における代表的な技法（担当：濱田 智崇）				
第4回：臨床心理学的地域援助（担当：濱田 智崇）				
第5回：支援者に必要とされる基本的態度（担当：松下 幸治）				
第6回：秘密保持の重要性と意義・心理的支援の適応と限界（担当：松下 幸治）				
第7回：心の病理性（担当：松下 幸治）				
第8回：心の発達と心の病理① 乳幼児・児童期における心理的問題（担当：松下 幸治）				
第9回：心の発達と心の病理② 思春期・青年期における心理的問題（担当：松下 幸治）				
第10回：心の発達と心の病理③ 成人期における心理的問題（担当：岸 太一）				
第11回：心の発達と心の病理④ 高齢期における心理的問題（担当：岸 太一）				
第12回：心理的アセスメントとは（担当：岸 太一）				
第13回：心理アセスメントの諸手法（担当：岸 太一）				
第14回：心理的アセスメントにおける包括的解釈と報告（担当：岸 太一）				
テキスト 「臨床心理学と心理学的支援を基本から学ぶ」日比野英子（監），田中芳幸・濱田智崇（編） 北大路書房				
参考書・参考資料等				
「現実に関与しつつ心に関わる-多面的援助アプローチと臨床の知恵」田嶋誠一 金剛出版				
「現実に関与しつつ心に関わる[展開編]-多面的援助アプローチの実際」田嶋誠一 金剛出版				
「公認心理師の基礎と実践3 臨床心理学概論」野島一彦・岡村達也（編） 遠見書房				

学生に対する評価	レポート	50%	授業中課題	50%
----------	------	-----	-------	-----

授業科目名： 心理学研究法Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：岸 太一 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：心理学研究の方法論の概要、および量的研究と質的研究の理解			
到達目標：心理学が目標とする「実証（データ）に基づく客観的な行動理解」を実現するための方法論について理解を深める。			
授業の概要 心理学の方法論である、実験法、調査法、観察法などを理解するとともに、心理学における研究計画を身につける。またそれぞれの研究法において用いられる統計的方法（量的データへの分析方法の適用と解釈）や研究倫理についても理解を深める。			
授業計画（1コマ：100分）			
第1回：心理学研究法概論			
第2回：心理学研究におけるリサーチデザイン			
第3回：研究倫理①-研究対象者に対する配慮-			
第4回：研究倫理②-研究不正・QRP			
第5回：既存のデータや文献を用いた研究			
第6回：実験法① 概論			
第7回：実験法② 実験の種類			
第8回：実験法③ 実験計画を考えてみる			
第9回：調査法① 質問紙による調査			
第10回：調査法② 面接による調査			
第11回：観察法① 概論			
第12回：観察法② 観察の方法			
第13回：疫学研究			
第14回：介入研究			
第15回：試験			
テキスト			
「公認心理師スタンダードテキストシリーズ4 心理学研究法」三浦麻子・小島康生・平井啓（編） ミネルヴァ書房			
参考書・参考資料等			
「心理学研究法」村井潤一郎 サイエンス社			
「なるほど！心理学研究法（心理学ベーシック 第1巻）」三浦 麻子 北大路書房			
「心理学研究法 補訂版（有斐閣アルマ）」高野 陽太郎 ・ 岡 隆（編） 有斐閣			

学生に対する評価	授業中課題	30%	試験	60%	参加度	10%
----------	-------	-----	----	-----	-----	-----

授業科目名： 心理学研究法Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：上村 晃弘 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：質的データの収集と分析の技法について 到達目標：観察やインタビューによる質的データの収集ができるようになる。 テキスト型データなどの質的データを分析できるようになる。 これらを用いた仮説生成型研究ができるようになる。			
授業の概要 テキスト、資料、プロジェクターを使用して質的データの収集技法、分析技法について講義する。 第11回については、パソコンを用いて実習する。			
授業計画（1コマ：100分） 第1回：質的調査の考え方（テキスト pp.16-29） 1 質的調査とは何か 2 質的データの収集 3 質的データの分析 4 質的研究における事実 5 質的調査と異文化理解 6 質的調査と量的調査の関係 第2回：フィールドワーク（テキスト pp.32-45） 1 フィールドワークとは何か 2 フィールドワークに入る 3 データ収集の手法 4 どう分析し理論化するか 第3回：参与観察法（テキスト pp.46-53） 1 参与観察とは何か 2 参与観察の手順 3 参与観察 実践のポイント 4 参与観察をまとめる 第4回：アクション・リサーチ（別紙資料） アクション・リサーチとは何か？ 資料名：中村和彦（2008）． アクション・リサーチとは何か？ 人間関係研究（南山大学 人間関係研究センター紀要），7, 1-25. 第5回：インタビュー（テキスト pp. 74-87） 1 インタビューがあきらかにすること 2 インタビューの種類 3 相互行為としてのインタビュー 4 アクティブ・インタビューの方法 5 インタビューの実際 6 インタビューの経験 第6回：ライフヒストリー分析（テキスト pp.90-105） 1 ライフヒストリー分析とは何か 2・3 ライフヒストリーが作品になるまで 4 分析を終えてインタビューの過程をふりかえる 5 どのようなテーマがライフヒストリー分析に向くのか 6 ライフヒストリーの共有に向けて 第7回：複線径路等至性アプローチ（別紙資料） 複線径路等至性アプローチの臨床適用を巡って 資料名：サトウタツヤ（2015）． TEA（複線径路等至性アプローチ） コミュニティ心理 学研究, 19（1），52-61. 第8回：会話分析（テキスト pp.106-119） 1 会話分析とは何か 2 会話データの収集			

3 トランスクリプト 4 順番取りシステムとしての会話 5 隣接ペアと活動の連鎖の組織化 6 非対称性と成員カテゴリー分析			
第9回：内容分析（テキスト pp.120-133） 1 内容分析とは何か 2 内容分析を用いる推論の枠組み 3 テーマから分析対象を選ぶ 4 サンプルングとコーディング 5 予備調査と信頼性 6 分析と検証			
第10回：質的データのコンピュータ・コーディング（テキスト pp.134-139） 1 インタビューデータからライフストーリーへ 2 質的データ分析に用いられるソフトウェア 3 計量テキスト分析の利点と欠点			
第11回：計量テキスト分析の実例（別紙資料） 計量テキスト分析およびKHCoderの利用状況と展望 資料名：樋口耕一（2017）．計量テキスト分析およびKH Coderの利用状況と展望 社会学評論, 68（3）, 334-350.			
第12回：質的調査の実例①-調査の企画からデータ素材の収集まで（テキスト pp.164-177） 1 調査の企画 2 調査の設計 3 調査の依頼 4 参与観察法によるデータ素材の収集 5 インタビューによるデータ素材の収集			
第13回：質的調査の実例②-データの作成から論文の執筆まで（テキスト pp.178-191） 1 データの作成 2 テープ起こし 3 データの分析① 4 データの分析② 5 論文の執筆 セラピーとしての質的調査（テキスト pp.202-205）			
第14回：質的調査と調査倫理（テキスト pp.206-219） 1 プライバシーと個人情報保護 2 学会、市場調査業界の倫理規定等 3 ラポール 4 質的調査の立場と倫理			
テキスト 「よくわかる質的社会調査 技法編」 谷 富夫・芦田 徹郎 編著 ミネルヴァ書房			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価 レポート 70% 参加度 30%			

授業科目名： 発達心理学Ⅰ		教員の免許状取得のための 選択科目		単位数： 2単位		担当教員名：柴田 利男	
						担当形態：単独	
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）					
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 「哲学、倫理学、宗教学、心理学」					
授業のテーマ及び到達目標							
テーマ：ヒトの発達の变化のプロセスと、それにかかわる諸要因について理解する。							
到達目標：発達の变化のプロセスと基礎的メカニズムを理解し、人の心理・行動の個人史的な成り立ちを説明できること。							
授業の概要：発達心理学は、生まれてから死ぬまでの变化のプロセスを研究対象とする。発達の变化には発展と衰退の2つの方向が考えられるが、必ずしも出生から成人期まで発展し、中年期以降衰退するというわけではない。いつの時点でも発展と衰退は同時に生じている。例えば新生児の行動発達は、原始反射の衰退と随意的行動の発展によって特徴づけられる。講義では、前半はまず発達観・発達理論の歴史的変遷について述べ、後半は主に認知的・社会的発達を中心に、代表的な研究例を示しながら発達プロセスの発展と衰退について概観する。							
授業計画（1コマ：100分）							
第1回：序：発達研究とは－生涯発達という考え方							
第2回：1：発達過程の基礎－遺伝か環境か							
第3回：2：発達の基礎理論－（1）ピアジェの認知発達段階							
第4回：2：発達の基礎理論－（2）ピアジェ批判とヴィゴツキーの発達論							
第5回：2：発達の基礎理論－（3）発達障害・非定型発達の捉え方							
第6回：3：自己および他者との関係－（1）自己意識の発生過程							
第7回：3：自己および他者との関係－（2）母子関係の理論							
第8回：3：自己および他者との関係－（3）アタッチメントの個人差							
第9回：3：自己および他者との関係－（4）初期コミュニケーション							
第10回：3：自己および他者との関係－（5）感情の発達							
第11回：3：自己および他者との関係－（6）感情認知と感情コミュニケーション							
第12回：4：生涯発達－（1）青年期の発達の問題							
第13回：4：生涯発達－（2）発達段階から見た成人期と老年期							
第14回：まとめ：発達と進化 & 期末試験（記述問題）							
テキスト なし							
参考書・参考資料等 公認心理師の基礎と実践12 発達心理学 本郷 一夫 遠見書房							
学生に対する評価：試験 50%、小テスト 50%							

授業科目名： 発達心理学Ⅱ		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：柴田 利男 担当形態：単独
科 目		教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		教科に関する専門的事項 「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
授業のテーマ及び到達目標				
テーマ：生涯発達の視点から、生得的能力とその個性化と社会化のプロセスについて理解する。 到達目標：生物学的基礎を持つ心理的行動的傾向が、生涯発達プロセスにおいて個性化され社会化されるメカニズムを説明できること。				
授業の概要：生物学的基礎を持つ反応傾向は、環境とのかかわりの中で、その人特有の心理的行動的傾向へと変化していく。この授業では、反射行動、運動発達、言語の獲得、そして老化など、ヒトに共通した変化のプロセスがいかにしてその人独自の心理的行動的傾向に発達・変化していくのかについて、生涯発達の視点から考える。同時に、そのような変化のプロセスを捉えるための方法論について理解する。				
授業計画（1コマ：100分）				
第1回：1：発達研究の方法（1）縦断研究・横断研究・コーホート				
第2回：1：発達研究の方法（2）発達経路の多様性、非定型発達				
第3回：2：運動発達と知覚・認知（1）原始反射と意図的行為				
第4回：2：運動発達と知覚・認知（2）生得的反応傾向-気質と性格				
第5回：2：運動発達と知覚・認知（3）乳幼児の認知能力				
第6回：2：運動発達と知覚・認知（4）知覚・運動の発達と認知発達				
第7回：3：知能の発達（1）知能検査の功罪				
第8回：3：知能の発達（2）知能の発達の变化				
第9回：4：社会性の発達（1）言語発達				
第10回：4：社会性の発達（2）心の理論				
第11回：4：社会性の発達（3）仲間関係から友人関係へ				
第12回：5：成人期・老年期の発達の問題（1）老化のメカニズム、回想と自伝的記憶				
第13回：5：成人期・老年期の発達の問題（2）高齢者の認知的能力と老いへの適応				
第14回：まとめ：発達の变化とは何か & 期末試験（記述問題）				
テキスト なし				
参考書・参考資料等 公認心理師の基礎と実践12 発達心理学 本郷 一夫 遠見書房				
学生に対する評価：試験 50%、小テスト 50%				

授業科目名： コミュニティ心理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：宮井 研治 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：地域社会に生かす臨床心理学 到達目標：人間を生活者として、環境を含めて理解し、その視点での心理的援助を学ぶ			
授業の概要：コミュニティ心理学の歴史的背景、基本的な発想、背景となるいくつかの理論、介入と援助について理解する。児童相談所等における実務経験のある教員が家庭や地域、学校教育、産業領域といった各分野での実践例を取り上げ解説する。これにより地域社会における心理的援助の理解を深める。さらに、社会的文脈から人間の心理を理解できるようになり、さらに心理学を学んだ者として、自分自身が社会に対しどうかかわるかを考えることができるようになる。			
授業計画（1コマ：100分） 第1回：オリエンテーション 第2回：コミュニティ心理学とは何か・その概念と理念 第3回：コミュニティ心理学の歴史的背景 第4回：基本的発想（1）人と環境の適合を目指して 第5回：基本的発想（2）エンパワメントとサービス提供のあり方 第6回：背景となる理論（1）危機理論・ストレス理論等 第7回：背景となる理論（2）ソーシャルサポートをめぐって 第8回：介入と援助（1）危機介入・コンサルテーション 第9回：介入と援助（2）さまざまなアプローチ 第10回：子育て支援の実践から 第11回：DV対応における実践から 第12回：学校・教育における実践から 第13回：産業・職場における実践から 第14回：男性のための悩み相談の実践から			
テキスト 面接の技とコツ 宮井研治編著 明石書店			
参考書・参考資料等 なし			
学生に対する評価：レポート 50%、参加度 50%			

授業科目名： 社会・集団・家族心理学Ⅰ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：前田 洋光 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：社会心理学という学問の基礎的な考え方を理解する。 到達目標：①対人関係や集団内での意識や行動について理解する。 ②人の態度や行動に関する基礎的な考え方を理解する。 ③他者や集団が個人に及ぼす影響を理解する。 ④理論の習得はもちろんのことながら、受講者にとってきわめて身近なテーマであるため、日常生活と照らし合わせて考えることによって、「よりよい人間関係」「自分にとってより望ましいこれからの生き方」を考える。			
授業の概要：社会心理学者Aronsonは、人間を「社会的動物（The social animal）」と呼んだ。その言葉の通り、私たちは日常生活を営む上で、他者（友人、家族など）や集団、社会から多大な影響を受けており、同時に他者や集団、社会に多大な影響を及ぼしている。本講では、社会的認知や社会的影響の問題を中心に、様々な自己と他者のかかわりを、心理学的視点から論考していく。			
授業計画（1コマ：100分） 第1回：イントロダクション 第2回：社会的認知：原因帰属 第3回：社会的認知：対人認知 第4回：対人魅力 第5回：社会的欲求 第6回：自尊感情 第7回：自己意識と自己制御 第8回：社会・集団・家族の中での対人不安と自己意識 第9回：態度の形成と維持：社会・集団・家族との関わり 第10回：説得的コミュニケーション1：受け手・送り手・メッセージ内容に着目した検討 第11回：説得的コミュニケーション2：説得への抵抗と説得技法 第12回：言語的コミュニケーション 第13回：非言語的コミュニケーション 第14回：まとめと確認 ※確認部分で試験実施			
テキスト なし			

参考書・参考資料等 社会心理学 池田 謙一・唐沢 穰・工藤 恵理子・村本 由紀子 有斐閣

学生に対する評価：試験 70%、授業中課題 20%、参加度 10%

授業科目名： 社会・集団・家族心理学Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：前田 洋光 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：対人関係・対人行動・集団行動など、社会心理学の中心的テーマの概要を理解する 到達目標：①対人関係や集団内での意識や行動について理解する。 ②人の態度や行動に関する基礎的な考え方を理解する。 ③他者や集団が個人に及ぼす影響を理解する。 ④理論の習得はもちろんのことながら、受講者にとってきわめて身近なテーマであるため、日常生活と照らし合わせて考えることによって、「よりよい人間関係」「自分にとってより望ましいこれからの生き方」を考える。			
授業の概要：本講では、社会・集団・家族心理学Ⅰの内容を踏まえた上で、特に対人関係・集団行動を中心に論考していく。			
授業計画（1コマ：100分） 第1回：イントロダクション 第2回：対人行動：援助行動 第3回：対人行動：攻撃行動 第4回：対人関係の諸相 第5回：恋愛 第6回：対人葛藤、社会的ジレンマ 第7回：孤独とソーシャルサポート 第8回：集団と個人 第9回：集団行動 第10回：集団間関係 第11回：群集行動 第12回：流言・デマ 第13回：流行 第14回：まとめと確認 ※確認部分で試験実施			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 社会心理学 池田 謙一・唐沢 穰・工藤 恵理子・村本 由紀子 有斐閣			
学生に対する評価：試験 70%、授業中課題 20%、参加度 10%			

授業科目名： 対人援助論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：松下 幸治 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：心理・福祉・教育・医療等の種々の領域で展開されている「対人援助行為」について 広く概観する。 到達目標：対人援助行為の上で必要な態度・根本姿勢（attitude）、理論（theory）、技術・ 技法（technique）について3種のアプローチから学ぶ。			
授業の概要：心理・福祉・教育・医療の種々の領域で求められる対人援助行為の根本的な態度・姿勢 （attitude）を理解する。その中で内面探求型アプローチ・ネットワーク活用型アプローチ・システ ム形成型アプローチについて学び、理論（theory）に基づいた技術・技法（technique）について知る 。本講義はカウンセラー経験のある教員が担当する。			
授業計画（1コマ：100分） 第1回：オリエンテーション①～対人援助行為とは～ 第2回：オリエンテーション②～対人援助の「光」と「影」～ 第3回：心理学への興味とその後の展開 第4回：「臨床の知」と「科学の知」 第5回：内面探求型アプローチの実際 第6回：ネットワーク活用型アプローチの実際 第7回：システム形成型アプローチの実際 第8回：対人援助行為における根本姿勢（attitude）について 第9回：対人援助行為における理論（theory）の展開 第10回：対人援助行為における技術・技法（technique）について 第11回：それぞれの人生をいかに見ていかに意味づけるかということ 第12回：イメージの援助論的意義について 第13回：メタファーの援助論的活用について 第14回：まとめ～「精神科心理臨床」と「日常的な心理臨床」～			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 ・「来談者のための治療的面接とはー心理臨床の「質」と公認資格を考えるー」 増井武士著 遠見書房 2019年 ・「現実介入しつつ心に関わるー多面的援助アプローチと臨床の知恵ー」 田嶋			

誠一著 金剛出版 2009年
学生に対する評価：授業中課題 50%、参加度 50%

授業科目名： 知覚・認知心理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：細谷 周史 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：知覚心理学および認知心理学に関する基礎的な知識・考え方の理解 到達目標：実験心理学、生理学の研究によって明らかにされてきた感覚、知覚、認知領域の心理学理論について理解する。ヒトや動物は環境内の刺激をどのように知覚し、認知するのかについて理解を深める。			
授業の概要 ヒトを含む動物は、環境内の刺激（視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚）をどのように知覚し、認知しているのだろうか。動物の行動は、環境刺激を知覚、認知し、意志決定することにより表出される。講義の前半では、ヒトや動物が持つ感覚、知覚の特性を理解する。講義の後半では、感覚、知覚情報を動物がどのように理解、認知するかという情報処理システムについて解説する。動物による道具の使用、ヒトの言語、推論や意志決定など高次の認知機能及びその障害についても解説する。			
授業計画（1コマ：100分） 第1回：感覚、知覚とは？ 第2回：錯視と恒常性 第3回：色覚と明るさの知覚 第4回：運動視と立体視 第5回：聴覚 第6回：嗅覚と味覚 第7回：知覚運動学習 第8回：時間と注意知覚 第9回：意識とは？ ワーキングメモリー 第10回：会話と発話、言語の理解（読み書きリテラシー） 第11回：思考と問題解決 第12回：意志決定 第13回：デザインの認知 第14回：メタ認知とこころの制御			
テキスト 使用しない			
参考書・参考資料等			

知覚心理学の基礎（松田隆夫、培風館）

認知心理学-知のアーキテクチャを探る（道又爾・北崎充晃・大久保街亜・今井久登・山川恵子・黒沢学、有斐閣アルマ）

学生に対する評価

レポート（50％）、授業中課題（50％）

授業科目名： 学習・言語心理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：坂本 敏郎 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 「哲学、倫理学、宗教学、心理学」		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：学習心理学と言語心理学の基礎を学ぶ。 到達目標：学習心理学では、古典的条件づけ、オペラント条件づけの理論に加え、様々な種類の学習（報酬学習、逃避・回避学習、観察学習）について、その理論を理解する。言語心理学では、言語の成りたち、言語の獲得、言語に関わる脳部位、言語のはたらきについて（認知・発達・社会）心理学と脳科学の側面から理解する。			
授業の概要：パワーポイント、配布プリントを使って講義形式の授業を行う。			
授業計画（1コマ：100分） 第1回：ガイダンス・学習とは・学習心理学の研究方法 第2回：馴化と鋭敏化・古典的条件づけ①：基本的特徴 第3回：古典的条件づけ②：信号機能 第4回：古典的条件づけ③：学習内容と発現システム 第5回：オペラント条件づけ①：基本的特徴、強化 第6回：オペラント条件づけ②：罰、消去、強化スケジュール 第7回：オペラント条件づけ③：刺激性制御・概念学習・刺激等価性 第8回：観察学習・学習と記憶（前半まとめ：中間テスト） 第9回：言語とは：言語の発達、言語と脳 第10回：言語心理学の研究法、言葉の心的表象（心的辞書） 第11回：文の理解、文章の理解 第12回：言語の獲得と言語力の発達 第13回：読み書き障害とその支援 第14回：認知言語学（全体まとめ：期末テスト）			
テキスト 学習の心理 第2版 実森正子／中島定彦 サイエンス社			
参考書・参考資料等 言語心理学入門 福田由紀 培風館			
学生に対する評価：授業中課題 30%、試験 70%			

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：本庄 豊
公民科教育法Ⅰ	必修科目	2単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ 到達目標：多様化する現代社会について理解を深め、民主的で平和的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養うために、高校公民科教育の意義や内容についての理解を深める。特に、高校での公民科の授業を体験することで、カリキュラム作成、教材開発、授業評価の実際を学ぶ。 テーマ：公民科教育の意義・内容・課題			
授業の概要 中学校および高等学校教諭の経験を有する教員がその経験を生かし次の指導を行う。新科目「公共」の目標と内容の理解を深めるとともに、現代社会が抱える諸問題を教材化し、授業づくりの方法論、学習指導案の書き方、授業評価の方法を実践的に学ぶ。 当該教科の特性に応じた情報通信技術の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用できるよう授業内で情報通信機器を適宜活用する。			
授業計画（1コマ：100分） 第1回 新しい学習指導要領の考え方を知り、「公共」の目標と内容を学ぶ。 第2回 「日本国憲法の誕生」の授業づくりを通して学習指導案の書き方と評価方法を学ぶ 第3回 「日本国憲法の基本的性格」を扱った授業実践記録を分析し、憲法学習で求められる学習内容を検討する。 第4回 新聞やテレビなどメディア情報やインターネット情報を授業で使うための注意事項を考える。 第5回 時事問題を扱った授業実践を分析する。ネット検索などで、同じ事件に対してさまざまな見方があることに気づく。 第6回 「倫理」の授業：「生命倫理―出生前診断」の授業実践をもとに「アクティブ・ラーニング」の手法を体験する。 第7回 「倫理」の授業（1）：グループで哲学者・思想家の学習指導案と教材を作成して発表する。 第8回 「倫理」の授業（2）：グループで哲学者・思想家の学習指導案と教材を作成して発表する。 第9回 経済分野の授業：マンガ『ナニワ金融道』などを使って「資本主義経済」を教材化する。資本主義の現状について、企業にアクセスし調べ、意見を交流する。 第10回 経済分野の授業：コンビニエンスストアを使って「情報化の進展」を教材化する。 第11回 身近なモノ教材を導入に使う授業づくりの方法論―模擬授業と授業研究 第12回 新聞を使った授業づくりの方法論―模擬授業と授業研究。憲法記念日などについての社説の比較など、複眼的思考について理解する。 第13回 インターネット時代の授業づくりのあり方―模擬授業と授業研究。とりわけメディアリテラシーについて生徒の気づきを促すよう教材を精選する。 第14回 まとめ～ディスカッションを取り入れた授業づくり―模擬授業と授業研究の振り返り			
テキスト 高等学校学習指導要領解説公民編（平成30年7月告示 文部科学省）			
参考書・参考資料等			
学生に対する評価 授業中発表等(100%)			

授業科目名：	教員の免許状取得のための	単位数：	担当教員名：本庄 豊
公民科教育法Ⅱ	必修科目	2単位	担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（高等学校 公民）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業の到達目標及びテーマ			
到達目標：模擬授業づくりを通して、教材開発の手法とカリキュラムデザインの実践を学ぶ。			
テーマ：公民科教育の内容理解と授業づくり			
授業の概要			
中学校および高等学校教諭の経験を有する教員がその経験を生かし次の指導を行う。学生が小グループでカリキュラム開発や教材開発を行い、模擬授業を行って、授業研究会を組織する。また、「政治・経済」「倫理」の中から個人で模擬授業を行い、授業後、授業研究を行う。			
当該教科の特性に応じた情報通信技術の効果的な活用法を理解し、授業設計に活用できるよう授業内で情報通信機器を適宜活用する。			
授業計画（1コマ：100分）			
第1回 18歳選挙権時代のもとで求められる「政治的中立」について学ぶ。			
第2回 18歳選挙権をテーマとした実践報告を調べ、模擬投票や模擬請願の手法を学ぶ。			
第3回 公民科の目標に挙げられる「現代の諸課題」の取扱いと「持続可能な社会」について学ぶ。世界の政府や市民運動についての情報を集め、身近な問題とつなげるようにする。			
第4回 グループ研究1：原子力発電を地球環境問題、エネルギー問題の視点から教材化し、模擬授業をおこなう。			
第5回 グループ研究2：原発立地自治体と原発労働者の問題を生存権、格差・経済的不公平の視点から教材化し、模擬授業をおこなう。			
第6回 グループ研究3：世界の再生可能エネルギー政策について教材化し、模擬授業をおこなう。			
第7回 共同研究1：討論授業「原発再稼働は是か非か」を議論するために必要な教材開発をおこなう。政府見解や裁判の判決、新聞記事などを検索し、資料として提示するようにする。			
第8回 共同研究1：時事問題……その時点での時事問題を扱った授業教材をつくる。【例】ウクライナ問題……情勢が日々変化するなかで最新のものをインターネットなどで提示する。			
第9回 学習指導要領における「政治・経済」の目標、内容と内容の取扱いについて学ぶ。			
第10回 「現代日本における政治・経済」をテーマとした模擬授業と授業研究			
第11回 「現代の国際政治・経済」をテーマとした模擬授業と授業研究			
第12回 「グローバル化する国際社会の諸課題」をテーマとした模擬授業と授業研究			
第13回 学習指導要領における「倫理」の目標、内容と内容の取扱いについて学ぶ。 近年話題となっている生命倫理については、最近の事例をインターネットで調べ、意見交流する。			
第14回 まとめ～今までの授業を振り返る			
テキスト			
高等学校学習指導要領解説公民編（平成30年7月告示 文部科学省）			
参考書・参考資料等			
学生に対する評価			
授業中発表等(100%)			

授業科目名： 人権と教育	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：西尾 泰広 担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
今日、部落問題、多文化共生、女性の権利や性の多様性、子どもの権利など、人権に関わる多様な問題が指摘されているが、相互の関係性も含めてそもそも人権問題とは何か、その基本的認識についての理解をはかり、これからの人権教育のあり方について考える。			
授業の概要			
デジタル社会への移行のなかで生起している人権問題を視野に入れながら、明らかに立憲主義が後退した現代日本社会の政治社会状況のなかで、注目されている具体的な人権問題を考えていく。授業計画にも幾つかの具体的な課題を列記しているが、講義でふれるのはその幾つかに留めることになる。2度にわたる世界大戦を経験した20世紀が終わり、21世紀も既に20余年が経過した。自然災害大国である日本では「3・11」（2011年）などが社会を震撼させたのみならず、人々の日常と生業、そして保障さるべき権利にも大きな影響を与えた。そして現在、「新型コロナウイルス」が世界的に猛威をふるっている。こうした歴史的経過をふまえ、普遍性を持つ平和、人権なる概念がどう社会で受容されてきたか、これからの人権は如何にあるべきかを受講生と共に考えたい。			
授業計画（1コマ：100分）			
第1回：「人権」とは-世界史的な人権の流れ			
第2回：近現代日本における人権①：「人権」のはじまり-19世紀			
第3回：近現代日本における人権②：大日本帝国憲法下の「人権」			
第4回：近現代日本における人権③：日本国憲法と基本的人権の尊重			
第5回：部落問題をめぐって①：近世「身分社会」から近代「部落問題」へ			
第6回：部落問題をめぐって②：部落問題の解決にむけて			
第7回：「人権と教育」の軌跡-同和教育から人権教育へ			
第8回：「人権と教育」をめぐる諸問題①：在日外国人との「多文化共生」			
第9回：「人権と教育」をめぐる諸問題②：アイヌと沖縄			
第10回：「人権と教育」をめぐる諸問題③：性と人権			
第11回：「人権と教育」をめぐる諸問題④：学校・子どもと人権			
第12回：「人権と教育」をめぐる諸問題⑤：戦争／平和と人権			
第13回：「人権と教育」をめぐる諸問題⑥：地域と人権			
第14回：まとめ：「人権と教育」の未来へ			
テキスト			

参考書・参考資料等

尾川昌法『人権のはじまり—近代日本の人権思想—』（部落問題研究所、2008年刊）。
他に各回の授業においても適宜紹介する。

学生に対する評価

レポート（50％）、授業中課題（50％）

授業科目名：道徳教育 の理論と方法	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：岩本 賢治 担当形態：クラス分け・単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
道徳の意義や原理等を踏まえ、道徳科の目標や内容、指導計画等を理解するとともに、教材研究や学習指導案の作成と発表を通して、実践的な指導力を身につける。。			
授業の概要			
公立中学校で勤務し、道徳教育の実践経験を有する教員が次の指導を行う。 学校教育を通して、自然と社会性と道徳性をどう身につけていくのかという課題に対して、歴史的及び理論的な視点から考察する。さらにそうした考察・探求を、具体的な道徳教育（授業）の実践例の分析を通じて深めていく。終末は道徳授業の構想づくりから授業プランづくりまでできる力量を習得できるような実践的な授業になる。			
授業計画（1コマ：100分）			
第1回：道徳教育とはなにか（1）―大学生の自己形成と道徳の授業をふり返って			
第2回：道徳教育とはなにか（2）―道徳教育の現状、道徳教育の要点			
第3回：道徳教育の歴史（1）―教育勅語と修身科（明治～敗戦）※小テスト実施			
第4回：道徳教育の歴史（2）―生活綴方教育と全面主義道徳教育（敗戦～1958年）※小テスト実施			
第5回：道徳教育の歴史（3）―特設道徳の設置と全面主義道徳（1958～2015年）※小テスト実施			
第6回：道徳教育の歴史（4）―道徳の教科化といじめ問題（2015年～）※小テスト実施			
第7回：道徳授業の検討（1）―「いのちの授業」の実践例から学ぶ ※小テスト実施			
第8回：道徳授業の検討（2）―「いのちの授業」を構想する ※小テスト実施			
第9回：道徳授業の検討（3）―いじめ問題の実践例から学ぶ			
第10回：道徳授業の検討（4）―いじめ問題の授業を構想する			
第11回：特別の教科である道徳の年間計画―教科と特別活動、総合的な学習との横断的な学習			
第12回：特別の教科である道徳の教材研究―道徳の授業構想の立て方			
第13回：特別の教科である道徳の指導案づくり―道徳の学習指導案の書き方			
第14回：道徳教育の実践と評価の方法―道徳授業構成の発表とまとめ。			
テキスト			
中学校学習指導要領解説 道徳編（平成29年7月告示 文部科学省）			
参考書・参考資料等			
『ゼロから学べる道徳科授業づくり』（平成29年 荒木寿友著 明治図書出版）			
『道徳を問いなおす―リベラリズムと教育のゆくえ』（平成23年 河野哲也著 筑摩書房）			

学生に対する評価

小テスト40%、授業中課題30%、授業中発表等15%、参加度15%

授業科目名：学校経営と 学校図書館	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 西浦 富美子
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
学校図書館の教育的意義や経営など全般事項についての理解を図り，学校図書館運営の問題点を認識することをテーマとする。計画・実行・評価・改善という経営サイクルを回す基礎的知識・技能を身に付けると共に，学校の教育目標達成を支援し，魅力ある学校図書館活動を実現する意欲と創造性を高めることを目標とする。			
授業の概要			
授業形式は，主として講義と演習で構成されている。授業の前半では，学校図書館経営の礎となる理念，背景となる歴史，根拠となる法体系等を解説し，学校図書館の意義と役割について基本的な理解を図る。後半では，学校経営における学校図書館の位置づけを確認した上で，学校図書館機能の充実・強化について，その構成要素と関連させて説明し，論点を提示する。授業内課題は，司書教諭と学校司書の協働，運営体制，館内環境整備，外部組織との連携の現状等について文献やインターネット情報源をもとに調査し，評価と改善の方策を探る形式で出題する。			
授業計画（1コマ：100分）			
第1回：学校教育の変遷と学校図書館			
第2回：学校図書館の歴史（日本） 戦前・戦後の学校図書館			
第3回：学校図書館の歴史（欧米） 学校図書館の現代化と課題			
第4回：学校図書館をめぐる法と行政			
第5回：学校の教育課程と学校図書館			
第6回：学校図書館の経営			
第7回：学校図書館担当者の役割と任務			
第8回：学校図書館活動の評価と改善・経営サイクルの確立			
第9回：学校図書館の経営の実際(1) 学校図書館の運営と計画			
第10回：学校図書館の経営の実際(2) 施設・設備の管理とメディアの提供			
第11回：学校図書館の学習活動への支援			
第12回：学校図書館の特別活動への支援			
第13回：学校図書館の連携・協力			
第14回：学校図書館の将来像と「学校図書館の現状に関する調査」			

テキスト

「探究学校図書館学」編集委員会・編著『学校経営と学校図書館』初版（全国学校図書館協議会，2018），ISBN:9784793322747

参考書・参考資料等

野口武悟編『学校図書館基本資料集』改訂版（全国学校図書館協議会，2020），ISBN:9784793301018

根本彰『教育改革のための学校図書館』（東京大学出版会，2019），ISBN:9784130010085

学生に対する評価

授業中提出課題（100%）

成績評価は，授業中提示する提出課題によって行う。課題は設定された締切までに，指定された形式で提出すること。

授業科目名：学校図書館 メディアの構成	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 西浦 富美子
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標			
学校図書館メディアの構成と組織化に関する理解を深め、実務能力の育成を図ることをテーマとする。具体的には、コレクションの選択・収集・更新・廃棄のプロセスやメディアの組織化、配架・提供に必要な専門的能力の育成を目指す。			
授業の概要			
授業形式は、主として講義と演習で構成されている。前半の授業では、高度情報社会における学習環境の変化にともなう学校図書館メディアの教育的意義と役割、各種メディアの種類と特性について説明し、児童生徒や教員の利用に有効なコレクション構築について解説する。司書教諭が直面するメディア構成上の諸問題を考察できるよう、文献・インターネット情報源の検索やグループ討議を組み入れる場合もある。後半では、メディアの組織化に関する基礎的な演習（目録作成、分類・件名付与など）を行う。			
授業計画（1コマ：100分）			
第1回：高度情報社会における学校教育と学校図書館メディア			
第2回：学校図書館メディアの種類と特性			
第3回：特別なニーズに応える学校図書館メディア			
第4回：学校図書館におけるコレクション構築の基本			
第5回：学校図書館におけるコレクション構築の実際（1）：選択と収集、組織体制の確立			
第6回：学校図書館におけるコレクション構築の実際（2）：維持と管理、評価・更新・廃棄			
第7回：学校図書館におけるコレクション構築の実際（3）：ファイル資料の整備、配架と提供			
第8回：学校図書館メディア組織化の基本			
第9回：学校図書館メディア組織化の実際：目録法			
第10回：学校図書館メディア組織化の実際：目録のコンピュータ化			
第11回：学校図書館メディア組織化の実際：主題索引法			
第12回：学校図書館メディア組織化の実際：分類法			
第13回：学校図書館メディア組織化の実際：件名標目法			
第14回：これからの学校図書館メディアとその構成 ※期末試験実施			
テキスト			

「探究学校図書館学」編集委員会・編著『学校図書館メディアの構成』初版（全国学校図書館協議会，2020），ISBN：9784793322754

参考書・参考資料等

北克一，平井尊士編著『学校図書館メディアの構成』（放送大学教育振興会，2016），ISBN：9784595316517

※授業中に適宜，文献，インターネット情報源を紹介する。

学生に対する評価

授業中提出課題（80％） 期末試験（20％）

・成績評価は，授業中提示する提出課題によって行う。課題は設定された締切までに，指定された形式で提出すること。

・期末に学習到達度確認を行う。

授業科目名：学習指導と 学校図書館	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 西浦 富美子
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 新教育課程では、学習の基盤となる資質・能力の育成が求められている。そのうちの情報活用能力の育成に関して想定される学習内容「問題解決・探究における情報活用」は、学校図書館を活用する学習場面で既に行われているが、改めてその意義・方法を新教育課程の中に位置付け展開していくことを授業のテーマとし、学校図書館における情報活用能力等育成のための指導力とメディア活用をデザインする力を高めることを目指す。			
授業の概要 授業形式は、主として講義と演習で構成されている。授業の前半では、教育課程の学習基盤となる 3つの資質・能力一言語能力/情報活用能力/問題発見・解決能力の育成と学校図書館の役割について説明し、学校図書館における情報活用能力等の育成と評価について体系表や事例を紹介しながら解説する。後半では、情報サービスの種類とサービスの提供に必要な情報検索・情報収集、環境整備等の方法を提示する。受講生は、グループワークにより探究学習の4つのプロセスを研究し、その成果を発表する。			
授業計画（1コマ：100分） 第1回：現代の学校教育と学校図書館 第2回：教育課程の編成及び学習指導要領と学校図書館 第3回：学校図書館における情報活用能力等の育成 第4回：学校図書館における情報活用能力等の育成と評価（1）課題の設定 第5回：学校図書館における情報活用能力等の育成と評価（2）情報の収集 第6回：学校図書館における情報活用能力等の育成と評価（3）整理・分析 第7回：学校図書館における情報活用能力等の育成と評価（4）まとめと表現 第8回：教科等の学習指導の実際と学校図書館／【グループワーク】1. 課題の設定 第9回：総合的な学習・探究の時間と学校図書館／【グループワーク】2. 情報の収集 第10回：情報サービスと学校図書館／【グループワーク】3. 整理・分析 第11回：発達・情報ニーズに応じた学校図書館メディアの選択／【グループワーク】4. まとめと表現 第12回：【グループワーク】5. 発表準備 第13回：【プレゼンテーション】探究学習例の発表			

第14回：司書教諭の役割と学習指導と学校図書館

テキスト

「探究学校図書館学」編集委員会・編著『学習指導と学校図書館』初版（全国学校図書館協議会，2020），ISBN：9784793322761

参考書・参考資料等

堀川照代，塩谷京子編著『学習指導と学校図書館』改訂新版（放送大学教育振興会，2016），ISBN：9784595316500

※授業中に適宜，文献，インターネット情報源を紹介する。

学生に対する評価

授業中提出課題（60%）グループワーク及びプレゼンテーション（40%）

・成績評価は，授業中提示する提出課題とグループワーク及びプレゼンテーションによって行う。課題は設定された締切までに，指定された形式で提出すること。

授業科目名：読書と豊かな人間性	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 西浦 富美子
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
授業のテーマ及び到達目標 読書の意義と目的，児童生徒の読書習慣の形成，発達段階に応じた読書指導などについて理解を深め、全教職員による読書指導の理解を図り，自ら実践する司書教諭としての資質を養うことをテーマとする。種々の子どもと本を結ぶための方法を会得することを目標とする。			
授業の概要 授業形式は，主として講義と演習で構成されている。司書教諭の担う読書指導とは，児童生徒に読書材を紹介することをはじめ，自ら適書を選択する力，本を活用し評価する力等を育成することや，読書の喜びを共有する場を設定することにも及ぶ。その任に当たるため，読書教育の理念と読書指導の方法について実演を交えながら学ぶ。			
授業計画（1コマ：100分） 第1回：読書の意義と目的 第2回：読書教育の系譜 第3回：読書指導と学校図書館 第4回：子どもの読書環境 第5回：発達段階に応じた読書指導 第6回：子どもの本の種類と提供／読書環境の整備 第7回：子どもと本を結ぶための方法（1）読み聞かせ・ブックトーク 第8回：子どもと本を結ぶための方法（2）ストーリーテリング・アニメーション 第9回：各教科等での読書指導・探究的な学習と読書指導 第10回：読書活動の実際【実演発表：ブックトーク】 第11回：子どもと本を結ぶための方法（3）読書会 第12回：子どもと本を結ぶための方法（4）ビブリオバトル 第13回：読書活動の実際【実演発表：ビブリオバトル】 第14回：子どもと本を結ぶための方法（5）テーマ展示企画			
テキスト 「探究学校図書館学」編集委員会・編著『読書と豊かな人間性』初版（全国学校図書館協議会，2020），ISBN：9784793322778			
参考書・参考資料等			

M. J. アドラー, C. V. ドーレン [著] ; 外山滋比古, 槇未知子訳『本を読む本』(講談社学術文庫 ; [1299]) (講談社, 1997) , ISBN : 4061592998

※授業中に適宜, 文献, インターネット情報源を紹介する。

学生に対する評価

授業中提出課題 (60%) 読書活動の実演 (40%)

成績評価は, 授業中提示する提出課題と読書活動の実演によって行う。課題は設定された締切までに, 指定された形式で提出すること。

授業科目名：情報メディアの活用		教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 西浦 富美子
				担当形態： 単独
科 目		大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等				
授業のテーマ及び到達目標				
学校図書館を拠点とした情報メディアの利活用を推進し，教育活動全体の中での情報メディアの活用に関する理解を深め，更には，「学校図書館メディアの構成」と併せて，学校図書館メディアの専門家としての資質を涵養することをテーマとする。メディア教育の在り方への考察を深めるとともに，学校図書館メディアの特性を理解し，各種メディアを活用するうえで必要な知識・技能の獲得を目指す。				
授業の概要				
授業形式は，主として講義と演習で構成されている。現代社会におけるさまざまなメディアの特性を理解し，学校教育への活用について確認する。メディアの利用に関わる情報活用能力・メディアリテラシーや著作権の問題についても考察する。				
授業計画（1コマ：100分）				
第1回：情報化が進展する社会				
第2回：教育・学習理論と情報メディアの活用				
第3回：教育メディアの歴史(1) 活字資料・視聴覚資料				
第4回：教育メディアの歴史(2) コンピュータの教育利用				
第5回：情報メディアの種類と特性(1) 非デジタルメディア・パッケージ系メディア				
第6回：情報メディアの種類と特性(2) デジタルメディア情報源				
第7回：学校におけるICTの活用				
第8回：インターネット情報源と情報検索				
第9回：児童生徒の情報行動の実態と指導				
第10回：情報メディアの活用事例（小学校）				
第11回：情報メディアの活用事例（中学校）				
第12回：情報メディアの活用事例（高等学校）				
第13回：情報メディアをめぐる課題と展望				
第14回：まとめと確認				
テキスト				
「探究学校図書館学」編集委員会・編著『情報メディアの活用』初版（全国学校図書館協議会，2021），ISBN：9784793322785				

参考書・参考資料等

山本順一，気谷陽子・編著『情報メディアの活用』三訂版（放送大学，2016），ISBN：9784595316494

※授業中に適宜，文献，インターネット情報源を紹介する。

学生に対する評価

授業中提出課題（100%）

成績評価は，授業中提示する提出課題によって行う。課題は設定された締切までに，指定された形式で提出すること。

授業科目名： 日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：上出 浩 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	日本国憲法		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：日本国憲法における基本的知識と基本的思考の獲得 到達目標：日常生活の中で見え隠れする様々な社会的な問題を考え、対処をする為に必要な、日本国憲法に表された基本的な思考を身につけること。またこれを理解するために必要な基本的知識を身につけること。			
授業の概要 日本国憲法の思想や実践を身につけるために、基本的な事柄をできる限り分かりやすく解説していく。			
授業計画（1コマ：100分） 第1回：日本国憲法の位置づけ 第2回：日本国憲法の3大原則 第3回：日本国憲法の人権（人権総論：主体、制限、公共の福祉） 第4回：日本国憲法の人権（幸福追求権、新しい権利） 第5回：日本国憲法の人権（人権の分類、精神的自由：思想／良心の自由） 第6回：日本国憲法の人権（信教の自由） 第7回：日本国憲法の人権（表現の自由）－表現の自由とプライバシー－ 第8回：日本国憲法の人権（表現の自由）－検閲と事前抑制－ 第9回：日本国憲法の人権（経済的自由） 第10回：日本国憲法の人権（社会権） 第11回：日本国憲法の人権（手続き的保証、そのほかの権利） 第12回：日本国憲法の統治（三権分立、議会） 第13回：日本国憲法の統治（内閣と議会） 第14回：日本国憲法の統治（裁判所） 第15回：試験			
テキスト 1. いま日本国憲法は〔第6版〕：原点からの検証 小林武、石崎 学編 法律文化社 2018			
参考書・参考資料等 1. ポケット六法 平成30年版 宇賀 克也 他編集代表 有斐閣 2018 2. 憲法 第六版 芦部 信喜 著，高橋 和之 補訂 岩波書店 2015			

学生に対する評価

試験 70%、小テスト30%

授業科目名： 体育理論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：新野 守 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：体育科教育の概要とスポーツ文化の継承・発展を考える 到達目標：①体育科教育の概要を理解する。 ②体育やスポーツについて、文化的、社会的、歴史的側面の理解を深める。 ③これらを踏まえ、体育やスポーツについて理解する力、仲間と共に考える力、創造する力を身に付ける。			
授業の概要 近代スポーツの成立と変遷を、文化的・社会的背景を視野に入れて講義する。			
授業計画（1コマ：100分） 第1回：オリエンテーション 第2回：体育科教育 第3回：前近代スポーツ 第4回：イギリスのスポーツ教育 第5回：アメリカのスポーツ教育 第6回：アジアのスポーツ 第7回：日本の学校体育 第8回：子どもの遊び 第9回：スポーツ少年団 第10回：スポーツ部活動 第11回：職場スポーツ 第12回：女性スポーツ 第13回：スポーツと健康 第14回：生涯スポーツ 第15回：試験			
テキスト なし			
参考書・参考資料等 1. スポーツと教育の歴史 成田十次郎編 不昧堂出版 1988 2. スポーツとは何か 玉木 正之 講談社新書 1999 3. スポーツ文化論シリーズ 中村敏雄編 創文企画 1993			
学生に対する評価			

試験90%、参加度10%

授業科目名： スポーツコースⅠ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名：宇部 一 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：スポーツの基本技術の習得と身体運動の継続化。 到達目標：バスケットボール、バレーボールの基本的な技術や知識を学習することを通して、そのスポーツ種目のもつ特質を理解するとともに、スポーツの継続化による生涯スポーツの必要性を学ぶ。また、レクリエーションスポーツの体験やグループ活動を通してコミュニケーションスキルの向上をはかる。			
授業の概要 バスケットボールとバレーボールは全体での基礎練習やリーグ戦形式でのゲームを楽しむ。また、ウォーミングアップも含めて様々な運動や、いくつかのレクリエーションスポーツの体験を行う。			
授業計画（1コマ：100分） 第1回：授業内容の説明、施設利用等についての諸注意、スポーツ歴や体力、健康状態の確認、出席カードの作成など。 第2回：バスケットボールの基礎技術、ハンドリング、パス、シュート、ミニゲーム 第3回：バスケットボールのルール理解、ゲームの進め方、審判 第4回：バスケットボール、グループ単位での練習、3on3形式でハーフコートでのゲーム 第5回：バスケットボール、グループ単位での練習、5対5オールコートでのゲーム 第6回：バスケットボール、グループ単位での練習、男女混合チームでの変則ルールゲーム 第7回：レクリエーションスポーツの体験1（ソフトバレーボール、様々な鬼ごっこ等） 第8回：レクリエーションスポーツの体験2（フットサル、ドッジボール） 第9回：バレーボールの基礎練習、パス、レシーブ、スパイク等の基礎 第10回：バレーボールのルール理解、ゲームの進め方、審判 第11回：バレーボール、グループ単位での練習、セッターポジション固定でのゲームの実践 第12回：バレーボール、グループ単位での練習、2セッター方式の理解とゲームの実践 第13回：バレーボール、グループ単位での練習、1セッター方式の理解とゲームの実践 第14回：レクリエーションスポーツの体験3（縄やボールを用いた様々な運動）レポート作成			
テキスト 使用しない			

参考書・参考資料等

スポーツと生きる～生涯のスポーツライフ・デザイン～（久保山直己、宇部一、迫俊道、中野尊志、大林正憲共著、学術図書出版社）

学生に対する評価

レポート10%、授業中課題10%、授業中発表等20%、参加度60%

授業科目名： スポーツコースⅡ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1 単位	担当教員名：宇部 一 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第6 6 条の6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
授業のテーマ及び到達目標 テーマ：スポーツの基本技術の習得と身体運動の継続化。 到達目標：バドミントン、卓球の基本的な技術や知識を学習することを通して、そのスポーツ種目のもつ特質を理解するとともに、スポーツの継続化による生涯スポーツの必要性を学ぶ。また、レクリエーションスポーツの体験やグループ活動を通してコミュニケーションスキルの向上をはかる。			
授業の概要 バドミントンと卓球は全体での基礎練習やシングルス、ダブルスのリーグ戦形式でのゲームを楽しむ。また、ウォーミングアップも含めて様々な運動や、いくつかのレクリエーションスポーツの体験を行う。			
授業計画（1コマ：100分） 第1回：授業内容の説明、施設利用等についての諸注意、スポーツ歴や体力、健康状態の確認、出席カードの作成など。 第2回：バドミントンの基礎技術、ハイクリア、ドライブ、ヘアピン、スマッシュ等 第3回：バドミントンのルールの理解、ダブルスゲームの進め方 第4回：バドミントンダブルス、リーグ戦形式でのゲーム1（男女別） 第5回：バドミントンダブルス、リーグ戦形式でのゲーム2（ミックスダブルス） 第6回：バドミントンシングルス、リーグ戦形式でのゲーム 第7回：レクリエーションスポーツの体験1（ソフトバレーボール、ドッジボール） 第8回：レクリエーションスポーツの体験2（3on3形式でのバスケットボール） 第9回：レクリエーションスポーツの体験3（縄やボールを用いた様々な運動・ゲーム） 第10回：卓球の基礎技術、フォアハンド、バックハンド基本打ち 第11回：卓球の基礎技術、ルールの理解、ダブルスゲームの進め方 第12回：卓球ダブルス、リーグ戦形式でのゲーム1（男女別） 第13回：卓球ダブルス、リーグ戦形式でのゲーム2（ミックスダブルス） 第14回：卓球シングルス、リーグ戦形式でのゲーム、レポートの作成			
テキスト なし			

参考書・参考資料等

スポーツと生きる～生涯のスポーツライフ・デザイン～（久保山直己、宇部一、迫俊道、中野尊志、大林正憲共著、学術図書出版社）

学生に対する評価

レポート10%、授業中課題10%、授業中発表等20%、参加度60%

授業科目名： 英語 I A	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： ドン・グァン・ツァオ
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。 ・基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。 ・基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで 사용할 ことができる。 ・世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。			
授業の概要			
・人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地に関する世界各地からの話題の理解（読解やリスニング）活動 ・各テーマに関連する発信活動			
授業計画（1コマ：100分）			
第1回 オリエンテーション			
第2回 Unit 1 (B): Ask for Personal Information 個人の情報を求める			
第3回 Unit 1 (D): (Reading) Compare People’s Jobs 人々の仕事を比べる、 (E) (Writing) Write a Personal Description 自分のことを書いてみる			
第4回 Unit 2 (B): Talk about Free Time 余暇の過ごし方について話す			
第5回 Unit 2 (D): (Reading) Talk about Hobbies and Interests 趣味や興味について話す、 (E) (Writing) Plan a Party (パーティーを計画する)			
第6回 Unit 3 (B): Ask for and Give Travel Information 旅行情報を求める、与える			
第7回 Unit 3 (D): (Reading) Plan a Vacation 休暇の計画を立てる、 (E) (Writing) Describe a Place ある場所を描写する			
第8回 前半の復習とまとめ小テスト			
第9回 Unit 4 (B): Order a Meal 食事を注文する			
第10回 Unit 4 (D): (Reading) Urban Farming 都会の中の農業、 (E) (Writing) Follow and Give Instructions 指示に従う、指示を書く			
第11回 Unit 5 (B): Compare Everyday and Present-Time Activities いつもの活動と今している ことを比べる (E) (Writing) Write and Complete a Questionnaire アンケートを作る、答える			
第12回 Unit 6 (B): Ask about a Trip 旅行について尋ねる			
第13回 Unit 6 (D): (Reading) Describe an Ancient Place 古代の遺跡を描写する、			

(E) (Writing) Find and Share Information Online ネットで情報を見つける、共有する 第14回 後半の復習とまとめのテスト
テキスト 1. World English Level 1 Combo Split A (3rd Edition) by John Hughes and Martin Milner (Cengage Learning; 2020)
参考書・参考資料等 なし
学生に対する評価 試験55-60%、小テスト15-10%、授業中課題15%、参加度15%

授業科目名： 英語 I B	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： ドン・グァン・ツァオ
			担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
授業のテーマ及び到達目標			
Learn and express about the world through English as an international language. （国際語としての英語を通して、世界を学び発信する。）			
Students will:			
・Gain basic reading and listening skills（基礎的な読解・リスニング技能を獲得する。）			
・Express themselves in English based on an understanding of basic grammar and vocabulary.（基礎的な文法と語彙の理解に基づき、これらを発信レベルで 사용할 ことができる。）			
・Gain a global outlook by engaging with information from around the world.（世界各地から集められた情報に触れることで、世界に目を向ける。）			
授業の概要			
・Various activities for understanding global content in English involving the topics of people, daily life, travel, food, sports, and destinations.（人、日常生活、旅行、食べ物、スポーツ、観光地といったテーマで、世界各地から集められた話題を理解するための様々な活動）			
・Activities for expressing oneself in English in relation to these topics.（各テーマに関連するトピックの発信活動）			
授業計画（1コマ：100分）			
第1回 Orientation（オリエンテーション）Unit 1 (A): Meet People（初対面・自己紹介）			
第2回 Unit 1 (C): Describe Different Occupations（さまざまな職業について話す）			
第3回 Unit 2 (A): Talk About a Typical Day（典型的な一日について話す）			
第4回 Unit 2 (C): Describe a Special Celebration or Festival（祭り・祝いについて話す）			
第5回 Unit 3 (A): Identify Possessions（誰の持ち物か）			
第6回 Unit 3 (C): Give Travel Advice（旅行についてアドバイスする）			
第7回 Review 1（前半の復習とまとめ）			
第8回 Unit 4 (A): Give a Recipe（レシピを説明する）			
第9回 Unit 4 (C): Talk About Diets（食事について話す）			
第10回 Unit 5 (A): Describe activities happening now（今やっている活動について話す）			
第11回 Unit 5 (C): Talk About Favorite Sports（好きなスポーツについて話す）			
第12回 Unit 6 (A): Discuss Past Vacations（過去の休暇について話す）			
第13回 Unit 6 (C): Describe a Personal Experience（個人の体験を話す）			
第14回 Review 2（後半の復習とまとめ）			

テキスト

1. World English (2nd edition): Combo Split 1A with Online Workbook Access Code
Kristin L. Johannsen, Martin Milner, Rebecca Tarver Chase
Cengage Learning 2015

参考書・参考資料等

なし

学生に対する評価

レポート30%、小テスト30%、授業中課題40%

授業科目名： ITリテラシー	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：濱本 季之 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：高度情報社会におけるITの基礎的知識ならびに専門教育に向けた基本的なITスキルの習得			
到達目標：①電子メールの利用法、ならびに利用にともなうマナーを身につけ、学修上のコミュニケーションにおいて電子メールを適切に活用することができる。			
②剽窃や盗用といった不正行為の重大性を十分認識した上で、インターネットを活用した情報収集を適切におこなうことができる。			
③ITリテラシーの基礎となる、コンピュータの構成とネットワーク環境についての基本的知識が身についている。			
④タッチ・タイピングによるスムーズな文字入力ができ、文書作成ソフトウェアを用いてレジメやレポートの形式でまとめることができる。			
⑤表計算ソフトウェアを用いた、データの整理、加工をおこなうことができる。			
⑥プレゼンテーションの技法についての知識を身につけ、プレゼンテーションソフトウェアの基本的な機能を有効に活用することで、効果的なプレゼンテーションをおこなうことができる。			
。			
授業の概要			
現代の情報化社会に必須であるコンピュータやネットワークに関する基礎的知識の理解と、文書作成、表計算、プレゼンテーションのソフトウェアを活用する技能を、演習を通して習得する。具体的には、Officeソフトを通じ、身近な素材を元に文書ソフトではレポート作成、表計算ソフトではグラフ作成や数値分析、プレゼンテーションソフトではスライド作成といった実践力と応用力を養うとともに、情報社会におけるさまざまな危険を防ぐための知識、情報を扱ううえでのマナーを身につける。			
授業計画（1コマ：100分）			
第1回：オリエンテーション、学内システム			
第2回：コンピュータの基本構成			
第3回：ICT環境の理解と活用			
第4回：インターネットと情報倫理			
第5回：文書作成ソフトウェア(1)：ソフトウェアの基本操作			
第6回：文書作成ソフトウェア(2)：レポートの形式			
第7回：文書作成ソフトウェア(3)：レポート作成			

第8回：文書作成ソフトウェア(4)：レポート作成における注意点

第9回：表計算ソフトウェア(1)：ソフトウェアの基本操作

第10回：表計算ソフトウェア(2)：データの整理、加工

第11回：プレゼンテーションソフトウェア(1)：プレゼンテーションの基本

第12回：プレゼンテーションソフトウェア(2)：スライド作成の手順

第13回：プレゼンテーションソフトウェア(3)：プレゼンテーションの実践

第14回：まとめ

テキスト

Office基礎と情報モラル2019&Office365（情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む）（noa出版）

情報倫理ハンドブック2021（noa出版）

参考書・参考資料等

大学一年生のための情報リテラシー（小棹理子、丸善出版）

学生に対する評価

小テスト（40%）、授業中課題（60%）

授業科目名： データサイエンス基礎	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名：濱本 季之 担当形態：単独
科 目	教育職員免許法施行規則第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：数理的思考力とデータ分析・活用に関わる基礎的・汎用的能力の獲得			
到達目標：①ビッグデータの活用推進におけるデータサイエンスの重要性について説明することができる。			
②インターネット上の公的統計をはじめとしたオープンデータから、分析に必要なデータを収集することができる。			
③様々な統計グラフの特徴を理解することを通して、データの加工、表現に関する適切な知識と技法を身につけている。			
④データから基本統計量を求めることができ、さらに相関・回帰分析をおこなうことができる。			
授業の概要			
社会全般の情報化が進み、道具であるパソコンがより便利に使いやすく進歩していくなかで、使い手である我々には、それらに関する知識だけでなく、情報そのものを使いこなすことが求められている。本科目では、社会で求められている情報活用の基礎力を体系化し、どうやって効果的に情報を活用するかを演習を通して学習する。具体的には、一連の情報プロセス(収集、分析、整理・保管、表現、運用)の意味を理解し、データや情報を適切に処理・活用できる力を身につける。			
授業計画 (1コマ：100分)			
第1回：データサイエンスと社会 オリエンテーション			
第2回：データの収集・加工① データ収集の目的、統計・分析の基本の流れを理解する			
第3回：データの収集・加工② データの収集・加工の方法を知る Excelを使ったデータ加工の方法			
第4回：データの視覚化① グラフの種類 用途について			
第5回：データの視覚化② グラフ作成			
第6回：データ収集・加工③ 実践演習			
第7回：データの収集・加工④ Excel ピボットテーブルを用いたデータ加工			
第8回：データの視覚化③ ヒストグラムなど			
第9回：データの視覚化④ 散布図など			
第10回：データ分析① 代表値/分散/標準偏差など			
第11回：データ分析② 相関関係など			
第12回：データ分析③ 回帰分析の基本			

第13回：データ分析④ 重回帰分析の実践

第14回：総合演習 公的データを用いたデータ収集と分析の演習

テキスト

活用事例で分かる！統計リテラシー（noa出版）

Office基礎と情報モラル2019&Office365（情報活用力診断テストRastiの2回分の受験料を含む。）（noa出版）

参考書・参考資料等

これだけは知っておきたい データサイエンスの基本がわかる本（鈴木孝弘、オーム社）

学生に対する評価

小テスト（40％）、授業中課題（60％）

授業科目名： 教育原論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小野 文生、森（柴本） 枝美 担当形態： クラス分け・オムニバス
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標			
到達目標：教育の基本的な概念や、教育制度の成立と展開について、西欧諸国における教育思想の展開や日本における教育の歴史をふまえて明らかにする。教育に関する基本的な理解を深めるとともに、教職科目全体の学習につながるおよそのイメージがつかめるようにする。			
テーマ：教育の基本問題と教育改革			
授業の概要			
教育とは何か、教師は何のために教え、子どもはなぜ学校で学ぶのか、これらの問いに答えるために、教育の基本的な概念を検討し、理解を深める。次に、西欧諸国における教育思想の発展と教育制度の確立について、また、明治以降の日本における教育制度の成立と展開について説明を加えながら、教育史に関する基本的な事項をとらえる。そして、世界の教育や学校についても概観し、現代日本における教育課題を歴史的な視点から検討することを通して、教育、学校の在り方について考察する。			
授業計画（1コマ：100分）			
第1回 教育とは何か（担当：森（柴本） 枝美）			
第2回 人間理解と教育の考え方 ランゲフェルト教育学と臨床教育学からの問いかけ（担当：小野 文生）			
第3回 人間の成長・発達と教育 ライフサイクル論から見る風景（担当：小野 文生）			
第4回 教育思想の生成と展開 「教育学のパトス論的転回」のころみから（担当：小野 文生）			
第5回 教育制度と学校の役割（担当：森（柴本） 枝美）			
第6回 近代社会と学校（1） 近代学校の誕生（担当：森（柴本） 枝美）			
第7回 近代社会と学校（2） 自由か統制か 戦時期と戦間期（担当：森（柴本） 枝美）			
第8回 戦後日本と教育（1） 戦後教育改革（担当：森（柴本） 枝美）			
第9回 戦後日本と教育（2） 経済成長と教育（担当：森（柴本） 枝美）			
第10回 現代日本と教育改革（1） 「第3の教育改革」と学校（担当：森（柴本） 枝美）			
第11回 現代日本と教育改革（2） 21世紀の教育・学校（担当：森（柴本） 枝美）			
第12回 世界の教育・学校（1） 欧米編（担当：森（柴本） 枝美）			
第13回 世界の教育・学校（2） アジア編（担当：森（柴本） 枝美）			
第14回 現代社会に生きる子どもと教育・教育の課題（担当：森（柴本） 枝美）			

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

よくわかる教育原理 汐見稔幸・伊東毅・高田文子・東宏行・増田修治 ミネルヴァ書房 2011

よくわかる教育学原理 安彦忠彦・児島邦宏・藤井千春・田中博之 ミネルヴァ書房 2012

教育学をつかむ【改訂版】 木村元・小玉重夫・船橋一男 有斐閣 2019

やさしい教育原理【第3版】 有斐閣 田嶋一・中野新之祐・福田須美子・狩野浩二 2016

学生に対する評価

レポート50% 授業中課題50%

授業科目名：教職入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：池田 修
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 到達目標：今日の教育・学校・子どもを取りまく状況の中で、教師の仕事は何かを考え、教師としての責任と生きがいについて認識を深める。特に学習指導、生活指導、学校づくりについて、基本的な点を理解する。さらに現在の教育課題を自分自身が主体的に考える姿勢を育てる。 テーマ：教師の仕事についての認識を深め、教職を志す目的や教師としての責任について考える。			
授業の概要 具体的な事例をもとに講義する。一方的な講義だけではなく、参加者相互が学び合える授業とするために、授業の感想やレポートを全員に還元することなどに取り組む。			
授業計画（1コマ：100分） 第1回：教育を取りまく状況と今日の教育課題 第2回：教師に期待されること、教師としての生き方、教師の日常、教育の言葉 第3回：学習指導の歴史的な変遷と現代に求められる学力、学習者主体の学び、未来の教師 第4回：ICTの活用と小学校での授業づくりの実例（国語を例に考える） 第5回：少人数指導・習熟度別指導を巡って 第6回：児童・生徒の現状と生活指導の課題 第7回：いじめや不登校にどう取り組むか 第8回：学級作りの取り組み 学級レクリエーションの運営（野外活動・飯盒炊飯や焚き火など） 第9回：総合的な学習の時間の意義と実際 第10回：特別支援教育について（ADHDなどの子どもたちの指導について） 第11回：評価についての様々な考え方と実際 小中高の先生をお招きしてのディスカッション 第12回：チーム学校運営への対応を考える、保護者・地域との連携をどうつくるか 第13回：教師としての研修、教師の権利と責任、教師の身分保障、教師を巡る法的問題 第14回：講義全体を通しての質疑と授業のまとめ			
テキスト 『AさせたいならBと言え』岩下修 明治図書 1988年 『学びとは何か <探究人>になるために』今井むつみ 岩波新書 2016年 『新版 教師になるということ』池田修 学陽書房 2013年			

4. 『<教育力>をみがく 家本芳郎』寺子屋新書 2004年
5. 『いちばんやさしい 教える技術』向後千春 永岡書店 2012年

＊教科書は、読み終えている前提で授業を進めることを理解すること。

参考書・参考資料等

1. 『新任1年目を生き抜く教師のサバイバル術、教えます』西川純 学陽書房 2015年
2. 『夢と希望の人生学』佐藤剛史 現代書林 2012年
3. 『たったひとつを変えるだけ：クラスも教師も自立する「質問づくり」』吉田新一郎 新評論 2015年
4. 『なぜか仕事がうまくいく教師の7つのルール』西川純 学陽書房 2013年
5. 『その指導、学級崩壊の原因です！ 「かくれたカリキュラム」発見・改善ガイド』横藤雅人 武藤久慶著 明治図書 2014年
6. 『子供の「困った発言」に5秒で返す 教師の「切り返し」』池田修 明治図書 2022年
7. 『教育と授業——宇佐美寛・野口芳宏往復討論』野口芳宏 さくら社 2019年
8. 『サッカーで子どもの力をひきだす 池上さんのことば辞典』池上正 株式会社カンゼン 2016年
9. 『教えから学びへ；教育にとって一番大切なこと』汐見稔幸 河出新書 2021年
10. 『小学校高学年女子の指導 困ったときの処方箋 赤坂真二 学陽書房 2005年

＊参考書は、課題のレポートを書くための書籍として使うので、どんどん読み進めること。3冊は読んでおくとうい。

学生に対する評価

小テスト(30%)、授業中課題(50%)、レポート(20%)

これらは、原則として全て出してあることが評価の前提となることを理解すること。中間課題と、最終課題があることを理解しておくこと。

授業科目名： 教育制度論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 小田 義隆
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
（１）教育に関する制度的事項について、①公教育の原理及び理念を理解している。②教育制度を構成している教育関係法規を理解している。③教育制度を支える教育行政の理念と仕組みを理解している。④教育制度をめぐる諸課題について例示することができる。 （２）学校と地域との連携について、①地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法を理解している。②地域との連携を基とする開かれた学校づくりが進められてきた経緯を理解している。 （３）学校安全への対応について、①学校の管理下で発生する事件、事故及び災害の実情を踏まえ、危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性について理解している。②生活安全、交通安全、災害安全の各領域や我が国の学校をとりまく新たな安全上の課題について、安全管理および安全教育の両面から具体的な取組を理解している。			
授業の概要			
現代の学校教育に関する制度的事項について、基礎的な知識を身に付けるとともに、それらに関連する課題を理解する。教育制度は、教育に関する法規に基づき成立し、その背景の思想が制度を歴史的・社会的に成立させる。日本における教育制度の変遷を学習するとともに、それらを構成する制度の仕組みの展開や問題を検討する。また、学校と地域との連携に関する理解及び学校安全への対応に関する基礎的知識も学習する。授業方法としては、主として講義形式で行う。			
授業計画（1コマ：100分）			
第1回：近代学校制度の成立			
第2回：戦前の教育制度と教育勅語体制			
第3回：戦後教育改革と教育制度			
第4回：高度経済成長期の教育政策			
第5回：能力主義による教育制度の展開			
第6回：現代社会と教育制度			
第7回：憲法・教育基本法体制			
第8回：就学前・初等・中等教育の仕組みと展開			
第9回：教育課程・教科書法制の仕組みと展開			
第10回：教育行政制度の仕組みと展開			

第11回：教職員法制の仕組みと展開

第12回：学校の安全と法

第13回：学校内外における事故防止

第14回：学校と地域の連携（地域に根ざす学校づくり）

テキスト

1. 『現代教育制度論 第5刷』（土屋 基規，ミネルヴァ書房：2019）

参考書・参考資料等

1. 『地域に根ざす学校づくり ― “子どもが主人公”の学校改革を求めて』（仲田 陽一，本の泉社：2016）

2. 『事例で学ぶ学校の安全と事故防止』（添田久美子，ミネルヴァ書房：2015）

学生に対する評価

レポート(100%)

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤岡 秀樹
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：幼児、児童及び生徒の心身の発達と学習の過程			
到達目標：乳幼児期から青年期にいたる発達段階における心身の発達の特徴を理解し、発達段階に適したかかわりや学習を支える指導の基礎的な考え方について修得する。また、個人差についての理解を深め、特別な配慮や支援を必要とする児童生徒に対して、包括的な教育活動を行うことができる基礎的な力を身につける。			
授業の概要			
毎回授業の内容に即した資料を配布し、授業を行う。授業内では、教育実習や教職に就いた時に活かせる実践力を養うために、考えを深める時間をもったり、小グループでのディスカッションを行ったりすることがある。授業内容の理解を確認するために、レポートの提出を実施する。			
授業計画（1コマ：100分）			
第1回：教育心理学の歴史と教育心理学で学ぶこと			
第2回：発達についての基礎的理解			
第3回：胎生期から乳幼児期にかけての発達			
第4回：児童期の発達			
第5回：青年期以降の発達			
第6回：発達に関する基礎理論（1）初期経験の重要性とアタッチメント			
第7回：発達に関する基礎理論（2）ピアジェの認知発達理論・ヴィゴツキーの文化的・歴史的発達理論			
第8回：発達に関する基礎理論（3）エリクソンの理論・心の理論 中間テスト（後半）			
第9回：学習理論・動機づけと学習			
第10回：情報処理と記憶のメカニズム			
第11回：情緒・適応上の問題の理解と支援			
第12回：障害の理解と支援			
第13回：教育評価と授業づくり			
第14回：学級集団の理解 期末テスト（後半）			

テキスト：心理科学研究会（編）中学・高校教師になるための教育心理学 第4版 2021年 有斐閣
毎回授業内容に即した資料を配布する。

参考書・参考資料等：

『楽しく学べる最新教育心理学』櫻井茂男編 図書文化社（2017）

『教育心理学』田爪宏二編 ミネルヴァ書房（2018）

学生に対する評価：

中間テスト（35％）・期末テスト（40％），レポート（25％）

授業科目名： 特別支援教育論		教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1 単位	担当教員名： 羽山 裕子
				担当形態：クラス分け・単独
科 目		教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等		特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
授業のテーマ及び到達目標				
・現代日本における特別支援教育の仕組みと対象児を理解し、実践者としての教師が持つべき知識や技能について理解する。 ・障害種ごとに学校生活で出会う代表的な困難を知り、教育課程、授業づくり、生徒指導などの各場面で必要な配慮を理解する。 ・通常学級に在籍する発達障害等の困難を抱える子どもたちについて知り、学級集団の中で支援を行う際の問題と解決方法について考える。 ・障害以外の困難やニーズの存在を知り、支援制度の現状と課題を理解する。				
授業の概要				
・特別支援教育の制度と対象を理解する。また、教育の場や形態の違い（通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校）によって教育課程や教育方法が異なることを知り、適切な支援を継続的に提供するために、一人ひとりのニーズに即した個別の指導計画や個別の教育支援計画が果たす役割を理解する。さらに、異なる学校間や関係機関との連携を実現するための仕組みについて考える（主に第1回～第2回）。 ・各障害種別の特徴と指導方法を知る。また、そこにどのような対立する立場があり、それが実践上のどのような違いにつながるのかを検討する（主に第3回～第5回）。 ・障害のある子どもたちと周囲の子どもたちの関わりや、障害以外のニーズを持つ子どもたち（ニューカマーの子どもたち、障害児のきょうだい等）の問題など、通常学級内で多様な子どもたちが理解し合うための支援について検討する（主に第6回～第8回）。				
授業計画（1コマ：100分）				
第1回：特別支援教育の仕組みと対象（特別支援学校、特別支援学級、特別支援教育コーディネーター、特別支援学校のセンター的機能）				
第2回：特別支援教育に関する教育課程の特徴（自立活動、通級による指導、校内委員会、個別の指導計画）				
第3回：発達障害児の特性と学校生活での支援				
第4回：知的障害児の特性と学校生活での支援				
第5回：視覚障害児・聴覚障害児の特性と学校生活での支援				
第6回：肢体不自由児・病弱児の特性と学校生活での支援				
第7回：障害以外のニーズと学校生活での支援（ニューカマー、貧困、きょうだい児、保護者の支援等				

）試験
テキスト 玉村公二彦ほか編『新版キーワードブック特別支援教育』クリエイツかもがわ、2019年
参考書・参考資料等 日本特別ニーズ教育学会編『テキスト特別ニーズ教育』ミネルヴァ書房、2007年 茂木俊彦『障害児教育を考える』岩波書店、2007年
学生に対する評価 授業内でのミニレポート（30％）、授業内での発表（10％）、期末試験（60％）

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 森（柴本） 枝美 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 到達目標：教育課程の編成に関する基本的な理論と具体的な方法、日本における教育課程の歴史的変遷、教育課程編成における教育評価の意義と課題、について理解し、自らの実践に活かす手がかりを見いだすことができる。 テーマ：教育課程の構造と実践			
授業の概要 教育課程の意義、果たす役割、および、教育課程に関わる基本的な概念について理解し、教育課程編成、授業づくりに関わる基礎的知識を身につけるとともに、授業づくりやカリキュラム・マネジメントのために必要な力量の基礎を養う。			
授業計画（1コマ：100分） 第1回：教育課程とは何か 第2回：教育課程を編成するための構成要件 第3回：近代日本における教育課程の歴史 第4回：学習指導要領の変遷（1）経験主義と系統主義 第5回：学習指導要領の変遷（2）教育の現代化 第6回：学習指導要領の変遷（3）「ゆとり」への転換から生きる力の重視へ 第7回：現行の学習指導要領の特徴 第8回：教育課程と授業づくり 第9回：教科書の位置付けと採択システム 第10回：教育課程をめぐる現代的な課題（1）総合的な学習の時間 第11回：教育課程をめぐる現代的な課題（2）学校間の接続、地域との連携 第12回：教育評価の理論 第13回：多様な評価方法 第14回：教育課程の評価とその役割 カリキュラム・マネジメント 授業のまとめ			
テキスト 特になし			
参考書・参考資料等 中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省） 高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）			

中学校学習指導要領解説 総則編（平成29年7月 文部科学省）

高等学校学習指導要領解説 総則編（平成30年7月 文部科学省）

田中耕治編著『よくわかる教育課程 第2版』ミネルヴァ書房、2018年

田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵『新しい時代の教育課程（第4版）』有斐閣、2018年

学生に対する評価

レポート課題（50%）、授業中課題（30%）、授業中発表等（20%）

授業科目名： 総合的な学習の時間の 指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：武田 章 担当形態：クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習の時間の指導法		
授業のテーマ及び到達目標 小学校・中学校・高校における総合的な学習の時間の意義を理解し、各校種の総合的な学習の時間の指導計画作成や評価の考え方を学び、実際に教育現場に立って学習を推進していくうえで必要な素養を高めることを目標とする。			
授業の概要 小学校・中学校・高校での総合的な学習の時間の実施を想定して、全体的な計画を立案し、年間指導計画や単元指導計画を実際に作成する。そして、実際にどのような計画を実施するのかを交流し、実施後の評価等のあり方について学ぶ。さらに、総合的な学習の時間の具体的な実践例を学ぶことを通して、総合的な学習の指導法についての力量を獲得する。			
授業計画（1コマ：100分） 第1回：総合的な学習の時間の意義 第2回：総合的な学習の時間の教育課程と校内体制 第3回：総合的な学習の時間の実施にあたっての年間指導計画・単元計画の立案について 第4回：総合的な学習の時間の教材研究及び評価について 第5回：各教科・科目との関連性について 第6回：学習指導案の立案（「環境問題」等を例として） 第7回：学習指導案の立案（「地域の伝統や文化」等を例として）			
テキスト 『小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』文部科学省 東洋館出版 2017年 『中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』文部科学省 東山書房 2017年 『高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総合的な探究の時間編』文部科学省 学校図書 2019年			
参考書・参考資料等 『総合的な学習の時間』森田真樹/篠原正典編著 ミネルヴァ書房 2018年 『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開 小学校編』 『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開 中学校編』 『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開 高等学校編』			
学生に対する評価			

各授業でのふり返し内容と作成した学習指導案を評価対象とする。

授業中の発表50%、授業中の課題50%

授業科目名： 特別活動論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2 単位	担当教員名： 中村 映子
			担当形態：クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別活動の指導法		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：特別活動の教育的価値を捉え直し、これからの特別活動の実践の在り方を探究する。 到達目標：①特別活動の目標と内容（学校行事、学級活動・ホームルーム活動、児童会・生徒会活動など）の特徴を理解し、それに伴う指導法や評価法の在り方を理解する。②特別活動と各教科や総合的な学習の時間等との関連を理解する。③合意形成に向けた話し合い活動等の指導の在り方を例示できる。			
授業の概要			
特別活動の意義と目標及び具体的な内容（学校行事、学級活動・ホームルーム活動、児童会・生徒会活動など）とそれに伴う指導法や評価法の在り方を学ぶ。特に、グループワークやディスカッション等の体験型・参加型学習を取り入れる。			
授業計画（1コマ：100分）			
第1回：特別活動とは何か（教育課程における特別活動の位置付け、特別活動の経験の振り返り）			
第2回：特別活動の歴史的変遷			
第3回：現代における特別活動の教育的価値と今日的課題			
第4回：学校行事の意義と実際			
第5回：学校行事の計画と指導法			
第6回：児童会活動・生徒会活動の意義と実際			
第7回：生徒会活動の計画と指導法			
第8回：学級活動・ホームルーム活動の意義と実際			
第9回：学級活動・ホームルーム活動の学習指導案の検討①（学級開きの在り方）			
第10回：学級活動・ホームルーム活動の学習指導案の検討②（発表、評価、改善）			
第11回：学級活動・ホームルーム活動の計画と指導法①（話し合い活動の在り方）			
第12回：学級活動・ホームルーム活動の計画と指導法②（話し合い活動の体験、評価、改善）			
第13回：クラブ活動・部活動の実際と今日的課題			
第14回：全体のまとめ（特別活動の意義と今日的役割についての総括）			
テキスト			
中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編（平成29年7月 文部科学省）			
高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 特別活動編（平成30年7月 文部科学省）			

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編（平成29年7月 文部科学省）

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）

学生に対する評価

まとめのレポート40%、授業中課題（学習指導案等）50%、毎回の授業への取組みの状況10%

授業科目名：教育の方法及び技術(情報通信技術の活用含む)	教員の免許状取得のための必修科目	単位数：2単位	担当教員名：次橋 秀樹
			担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教育の方法及び技術 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
教育方法の理論と実践について知識を広げ、理解を深めることで、様々な優れた教育方法・技術の特徴を分析し、説明できるようにする。また、諸概念や情報通信技術を活用して実際に小学校・中学校・高等学校において自らの授業をつくり、実践し、改善できる力量と、児童及び生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技能を身に付ける。			
授業の概要			
「よい授業」とはどんな授業だろうか。学習指導要領で示される「見方・考え方」を働かせた「主体的・対話的で深い学び」は教室の内外でどのように実現できるのだろうか。本授業では、まず教育方法の歴史を概観してから、授業づくりに関わる現代的な課題を学習する。次に、授業を「教育目的・教育目標」「教材・教具」「指導過程」「教育評価」という4つの構成要素に分け、それぞれの視点に立って理論及び国内外の優れた実践事例を、最新の情報通信技術やその活用状況も押さえつつ検討する。			
授業計画（1コマ：100分）			
第1回：教育方法の歴史（情報通信技術の活用の意義と在り方を含む）			
第2回：教育方法の現代的課題（1）「個別最適な学び」と「協働的な学び」を目指す授業の検討（特別の支援を必要とする児童及び生徒に対する情報通信技術の活用の意義・留意点を含む）			
第3回：教育方法の現代的課題（2）「主体的・対話的で深い学び」を目指す授業の検討			
第4回：教育方法の現代的課題（3）情報通信技術の活用（外部人材・機関との連携や学校におけるICT環境の整備、情報通信技術を効果的に活用した校務の推進を含む）と情報活用能力（情報モラル含む）の指導			
第5回：教育方法の現代的課題（4）入試制度が教育方法に与える影響			
第6回：授業の構成要素と授業設計			
第7回：教育目的・教育目標			
第8回：教材・教具（1）教材づくりの基本原理			
第9回：教材・教具（2）デジタル教材の作成・利用と情報通信機器の効果的な活用を踏まえた指導法			
第10回：指導過程（1）学習形態（遠隔・オンライン教育の意義や関連システムの使用法）			

第11回：指導過程（2）指導言

第12回：指導過程（3）板書、ノート、情報通信機器の操作指導

第13回：教育評価（1）さまざまな評価方法と評価者

第14回：教育評価（2）評価における学習履歴（スタディ・ログ）など教育データの活用

テキスト

指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書・参考資料等

石井英真『授業づくりの深め方 「よい授業」をデザインするための5つのツボ』ミネルヴァ書房、2020年。

田中耕治・鶴田清司・橋本美保・藤村宣之『新しい時代の教育方法 改訂版』有斐閣アルマ、2019年。

中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」（令和3年1月26日）

小学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）

高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）

学生に対する評価

（1）授業中の提出物 50%（その都度指示をする。）

（2）期末レポート 50%（内容・条件については第8回の授業で指示をする。）

授業科目名： 生徒・進路指導	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 辻 健司、藤岡 秀樹
			担当形態： クラス分け・オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
授業のテーマ			
生徒指導、進路指導・キャリア教育の理論及び方法を学ぶ			
到達目標			
1. 生徒指導と進路指導・キャリア教育の意義や原理が理解でき、説明できる。			
2. 児童・生徒全体への指導として、具体的な指導や取組に反映させ応用できる。			
3. 児童・生徒一人一人の個性や特性を把握し、資質・能力の育成に生かせる。			
4. 保護者や地域住民、専門家や関係機関との連携を深めながら行動できる。			
授業の概要			
学校教育における生徒指導・進路指導について、その教育的意義や教育課程、特別活動、道徳、学級経営との関連性を考察するとともに、グループに分けて活発な意見交換をしながら、望ましい学級集団形成を目指した学級経営やキャリア教育の在り方について、映像教材や具体的な資料を使用して実践的指導力を養成する。			
授業計画（1コマ：100分）			
第1回：教育課程における生徒指導の位置付けについて…具体的な事例をもとに生徒指導の根底にあるべき教育観・子ども観を考察する。（担当：辻 健司）			
第2回：各教科や道徳・総合・特活における生徒指導の意義について…教科指導中にありがちな生徒指導や、道徳・総合・特活の活用のあり方を実践的に考察する。（担当：辻 健司）			
第3回：集団指導と個別指導、生徒指導体制と教育相談体制の連携について…生徒集団の的確な評価と生徒一人一人との信頼関係の構築を関連させて考察する。（担当：辻 健司）			
第4回：学校全体の教育目標にもとづく組織的な取組の重要性について…日常的な指導にも大きな学校行事にも全教職員がふまえるべき理念と方法を考察する。（担当：辻 健司）			
第5回：基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成の重要性と課題について…自主性や自発性、一人一人の個性の伸張を図りながら、どのように両立させることができるか考察する。（担当：辻 健司）			
第6回：生徒一人一人の自己の存在感が育まれる場の設定について…発達障害の定義や概要をふまえ、多様性を認め合い互いの存在感を実感できる取組のあり方について考察する。（担当：辻 健司）			
第7回：校則・懲罰・体罰等の生徒指導に関する法令の内容理解について…諸法令の理解を深めつつ、生徒一人一人の人格の尊重と校則（停学・退学を含む）のあり方について考察する。（担当：辻 健司）			

第8回：暴力行為・いじめ・不登校等の生徒指導上の課題と対応の視点について…それぞれの問題の実情と変容を把握したうえで、克服に向けた理念と方法について考察する。（担当：辻 健司）

第9回：インターネットや性、児童虐待等今日的な課題について…学校としての取組だけでなく、専門家や関係機関との連携のあり方についても事例をもとに考察する。また、テストを実施する。（担当：辻 健司）

第10回：キャリア教育とは…職業指導→進路指導→キャリア教育への変遷、キャリア教育の意義について、具体的な実践を紹介する。（担当：藤岡 秀樹）

第11回：ガイダンスとしてのキャリア教育の指導…全ての生徒を対象としたキャリア教育の在り方を考察する。職場体験実習（中学校）やインターンシップ実習（高校）の実践例を紹介する（担当：藤岡 秀樹）

第12回：高校の校種別（全日制・定時制・通信制）及び学科別（普通科・総合学科・専門学科）の教育課程とキャリア教育の現状…近畿地区の高校を中心に現状を紹介する。（担当：藤岡 秀樹）

第13回：カウンセリングとしてのキャリア教育の指導…キャリア・カウンセリングの技法を紹介し、学生同士でロールプレイを実施する。（担当：藤岡 秀樹）

第14回：生徒一人一人の適性を配慮したキャリア教育…特別支援学校高等部のキャリア教育、大学入学共通テストにおける特別措置（合理的配慮）、高校卒業程度認定試験、キャリア・パスポートの活用などを紹介する。後半では、まとめを行った後、テストを実施する。（担当：藤岡 秀樹）

テキスト

担当教員で、その都度、レジュメ・資料・授業通信を作成配布する。

文部科学省『生徒指導提要』平成22年3月

森田健宏（編）『よくわかる教職エクササイズ4 生徒指導・進路指導』ミネルヴァ書房 2020年4月（藤岡担当部分）

参考書・参考資料等

辻健司「中学生とつきあい12章」『歴史地理教育』2016年1月～12月連載 歴史教育者協議会

西岡正子・桶谷守編『生涯学習時代の生徒指導・キャリア教育』2013年12月、教育出版

児美川孝一郎『権利としてのキャリア教育』 2007年5月 明石書店

国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター『変わるキャリア教育』 2016年8月 ミネルヴァ書房

学生に対する評価

第1回～第9回

毎回の授業中のミニレポート40%、発言20%、最終回のテストとレポート20%、宿題20%

第10回～第14回

レポート40%、最終回のテスト60%

授業科目名：教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大久保 純一郎
			担当形態： クラス分け・単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
テーマ：教育相談に必要な知識を学び、教育現場において活用できるカウンセリングマインドの実践力を身につける			
到達目標： 1）学校における教育相談の意義と理論を理解する。2）教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解する。3）教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取り組みや連携の必要性を理解する。			
授業の概要			
教育臨床の現場における心理臨床家としての実務経験を元に、事例の例示等を行いながら講義を行います。教育相談は、「児童生徒それぞれの発達に即して、好ましい人間関係を育て、生活によく適応させ、自己理解を深めさせ、人格の成長への援助を図るもの」とされています。学校現場では、日々さまざまな課題や問題が生じ、教師には教育相談を通してそれらに対応するための知識や実践力が求められています。この授業では、教育相談に必要な知識について学ぶとともに、教師に求められるカウンセリングマインドの実践力を身につけていただくことを目標とします。			
教育の現場で出会う児童生徒の問題についてよく知り、児童生徒とその保護者への支援のありかたについて考えを深め、実践力を身につけましょう。			
基本的にスライドプロジェクターを用いた講義を行います。カウンセリングマインドの習得のために、体験学習も行います。			
授業計画（1コマ：100分）			
第1回：オリエンテーション 教育相談の意義と現代社会でおきている生徒に関連する諸問題			
第2回：発達に関する基礎理論：エリクソンのライフサイクル論を中心に			
第3回：教育相談の基礎的な理論（1）人間性心理学			
第4回：教育相談の基礎的な理論（2）力動理論			
第5回：教育相談の基礎的な理論（3）行動理論			
第6回：学校におけるカウンセリングマインドの実践			
第7回：心の問題とその支援の概要			
第8回：不登校の理解と対応			

第9回：非行・暴力・虐待についての理解と対応

第10回：発達障害を抱える児童生徒の理解と対応 （1）自閉スペクトラム症

第11回：発達障害を抱える児童生徒の理解と対応 （2）注意欠如多動症・限局性学習症

第12回：学校における危機管理―虐待、自殺関連問題、災害や事故にあった時―

第13回：チーム学校―校内連携（学校組織の理解を含む）と専門家や外部機関との連携

第14回：教育相談に関するまとめと教師のストレスマネジメント

テキスト

ただし、文部科学省の「生徒指導提要」は、教科書に準じるものですので、必ず入手しておいてください。

生徒指導提要（文部科学省 H22.3） https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1404008.htm （2021/03/01）

（少なくとも、第5章は使用しますので、必ず入手しておいてください）

また、生徒指導提要の他の文書も参考にする事があります。それらについては、適宜指示します。

参考書・参考資料等

学生に対する評価 レポート50%、授業中課題50%

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習（中等）		単位数：2単位		担当教員名：杉山 勉	
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取（※2）	○
受講者数25人（2クラスで実施）					
教員の連携・協力体制 科目担当者は適宜学生の指導状況の確認会議を実施し、課題を共有しながら科目の運営にあたる。教科に関する内容の討論を行う場合、討論課題や評価の視点などを教科に関する科目の担当教員と相談しつつ行う。					
授業の到達目標及びテーマ 到達目標：大学での授業を中心に習得した教職に関する知識・技能と、教育現場で獲得した指導力を統合し、4年間の学びのまとめを行う。そのなかで、教育現場で教師として学級経営や教科指導に携わるためにはどのような資質・能力が要求されるのかを確認し、それぞれの学生の資質能力を吟味する。そのうえで、必要な知識と技能について補完することを目標とする。 テーマ：教職課程における総まとめ					
授業の概要 教員に求められる資質は①教育に対する愛情や使命感、責任感 ②子ども生徒理解 ③各教科等の知識と指導力 ④学校教育における実践的知識と技能 ⑤コミュニケーション能力や対人関係力である。 大学での履修カルテを通して4年間の学びをまとめ、大学での学習と教育現場での体験を生かし、演習によって自己の到達状況を把握し、その上で必要な知識や技能を補完する。さらに今後教師になるための意識を高め、自己に必要な知識と技能を明確にする。 授業内資料については、各学生に教材を配信し、復習等への活用を促すなど、授業の各所において情報通信技術を活用し、授業を進める。					
授業計画（1コマ：100分） 第1回：オリエンテーション・授業の目的と計画、履修カルテの読み返し、自己の課題の確認 第2回：教師の役割・なぜ教職を志望するのか、教師としての使命感や責任感、教師の体罰、学校組織 第3回：子ども生徒理解①・人としての成長、中高生を取り巻く社会問題 第4回：子ども生徒理解②・生徒指導、いじめ、不登校、教育相談 第5回：学校訪問（1）学校組織のあり方について（現職教員との意見交流：ICT技術を使ったデータ収集・蓄積・活用） 第6回：学校訪問（2）授業研究（現職教員の授業を受けての意見交流：ICT技術を使ったデータ収集・蓄積・活用） 第7回：教科指導のあり方・定期考査、評価評定のつけ方（グループ討議・エクセル等を活用					

した評価評定のつけ方を実践的に学習)

第8回：道徳、特別活動、総合的学習・教科以外の活動のあり方（グループ討議：討議結果をオンライン上でフィードバック・実際の学校現場の授業映像の視聴）

第9回：学級経営・学級編成、班編成、班活動のあり方（グループ討議：討議結果をオンライン上でフィードバック・ロールプレイング）

第10回：組織を考える・事例研究（グループ討議：討議結果をオンライン上でフィードバック）

第11回：連携を考える・保護者、地域、他校種、関係諸機関

第12回：対人関係を考える・コミュニケーションのとり方

第13回：再度問い直す・教育とは、教師とは（グループ討議）

第14回：教職実践演習の振り返り・教師になるために何が必要か

テキスト：

必要に応じて資料を配布または配信する。

参考書・参考資料等：

中学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）、高等学校学習指導要領（平成30年3月告示 文部科学省）

学生に対する評価：

授業に主体的に参加し、意欲的に取り組んできた者のみを対象とする。

授業中課題及び学期末課題70%、授業中発表等30%